

神奈川大学 2024 年度国際交流事業『助成金を獲得して実施した（2006 年～現在）  
ヤオ族関連研究成果最終報告会「ヤオの多面性と統一性」』

# 国際シンポジウム

## 「ヤオの多面性と統一性」 要旨集

開催日：2024 年 10 月 11 日～12 日

会場：神奈川大学 みなとみらいキャンパス 1F 米田吉盛記念ホール

主催：神奈川大学 共催：一般社団法人ヤオ族文化研究所



神奈川県 2024 年度国際交流事業『助成金を獲得して実施した（2006 年～現在）

ヤオ族関連研究成果最終報告会「ヤオの多面性と統一性」

国際シンポジウム

「ヤオの多面性と統一性」

2024 年 10 月 11 日～12 日 神奈川県 みなとみらいキャンパス

神奈川県 2024 年度国際交流事業〈獲得資助开展的（2006 年至今）

瑶族相关研究成果最终报告会“瑶的多面性与统一性”

国際研究会

「瑶的多面性与统一性」

2024 年 10 月 11 日～12 日 神奈川県 港未来校区



## 目次

開催にあたって	9
2024年国際研究会“瑶族的多面性与统一性”開幕致辭	13

ヤオ族文化研究所 所長 廣田律子

### グループ A 「歌謡の諸相」 / A 組 「歌謡的各种形态」

ベトナム瑶族「韓朋伝」と敦煌本「韓朋賦」および新発見唐代写本について	20
关于越南瑶族《韩朋传》与敦煌本《韩朋赋》以及新发现唐代抄本	20

京都大学 名誉教授 金文京

越南瑶族《英台古》整理與研究	21
Collation and research of the "Yingtai Gu" of the Yao in Vietnam	21

韶關學院 文學與傳媒學院 副教授 郭正宜

故事歌在瑶族的流傳	22
—— 以廣西〈舜兒古記〉與越南〈舜兒古篆記〉為例	

故事歌の瑶族における伝承	23
— 広西の「舜兒古記」とベトナムの「舜兒古篆記」を例に挙げる —	

國立臺中科技大學 通識教育中心 助理教授 鄭美惠

タイにおけるミエンの歌における歌謡語彙の特徴について	25
Characteristics of the song-language vocabulary of Mien songs in Thailand	26

東京學藝大學 名誉教授 吉野晃

中国藍山県「盤王願」に見る歌娘と師父の歌	28
中国蓝山县“盘王愿”中所见歌娘和师父的歌	29

神奈川大学 教授 廣田律子

グループ B 「移住・方術・冥界などに関する社会文献・儀礼文献」 /  
B 组 「关于迁徙、方术、冥界的社会文献和仪式文献」

瑶族經書儀式中的道教法術…………… 32  
Taoist methods and arts in Yao manuscripts and rituals …………… 32

四川大學 道教與宗教文化研究所 教授 張澤洪

《祖图》：记载泰国瑶族迁徙路线、时间的民间文献…………… 34

—— 域外瑶族《祖图》研究之二

*Zu Tu*: a folk literature of migration route-and-time records of Yao in Thailand…………… 35

—— Overseas study on *Zu Tu* of Yao ethnic group II

广西民族大学 瑶学研究中心 教授 玉时阶

南宁师范大学 学报编辑部 副研究员 玉璐

清莱皇家大学 社会学院 刘玉兰

《祖图》：泰北优勉（瑶族）祖先的迁徙路线…………… 36

—— 以盘氏家族、邓氏家族为例

“Zu Tu”, Migration Routes Recorded of the Yao Ancestors in Northern Thailand : A  
Case Study of the Pan and Deng Clans …………… 36

清莱皇家大学 社会学院 刘玉兰

清莱皇家大学 社会学院 宋巴

ヤオ族儀礼文献研究試論…………… 38

— テキスト間の相互関係に注目して —

瑶族儀式文獻研究試論：聚焦文本之間的相互關係…………… 38

筑波大学 名誉教授 丸山宏

勉瑶《評皇券牒》中的「盤瓠」及其敘事傳統分析…………… 40

“Panhu” and Its Narrative Tradition in Mien Yao’s “Charter of Emperor Ping” (Ping  
Huang Quandie)…………… 41

天主教輔仁大學 宗教學系 助理教授級專案教學人員 陳玫姩

Seek and Hide, Capturing and Dividing the Souls of the Opponent: A Textual Study of the Magic of Concealing the Basin 禁盆法…………… 42

藏迷魂：《禁盆秘語》文本的收捉分靈法…………… 42

香港大學 人文社會研究所 助理講師 Martin Tse (謝孟謙)

千般都是魯班教…………… 43

—— 瑤族的魯班信仰與儀式

All Taught by Lu Ban: Faith and Rituals Related to Lu Ban in Yao Culture…………… 44

香港大學 博士生 孫嘉珮

## グループC「生業・技術」／C組「生产技术」

六堡茶传承中的多民族交往交流交融与互嵌式发展…………… 46

六堡茶の伝承における多民族の交流、融合、および相互浸透による発展…………… 47

广西民族大学 民族学与社会学学院 院长/教授, 四部委铸牢基地首席专家 郝国强

广西民族大学 民族学与社会学学院 硕士研究生 李星莹

广西民族大学 民族学与社会学学院 博士研究生 奉媛

泰国瑶族传统银饰制作技艺的传承、发展与助力乡村振兴…………… 48

Inheritance, development and contribution to rural revitalization of the traditional silver making skills of the Yao people in Thailand…………… 48

泰国瑶族基金会--都银厂有限公司 Somchai Rungrachatanit (邓耀利)

泰国瑶族基金会--都银厂有限公司 Phimporn Rungrachatanit (邓顾贵)

瑶族宗教仪式剪纸的类型与特征…………… 50

Types and Characteristics of Yao Religious Ritual Paper-Cutting…………… 52

中南民族大学 文学与新闻传播学院 元教授 何红一

タイ北部のミエン（ヤオ）族が暮らす山村における家畜の重要性…………… 54

— 供犠利用の観点から —

Importance of Livestock for the Mien (Yao) People Living in a Hillside Village in Northern Thailand: Focusing on their Sacrificial Utilization…………… 55

神奈川大学 非常勤講師 増野高司

## グループD「儀礼実践の諸相」／D組「仪式实践的各种形态」

Cooking the Barbarians, Conquering the Forest: Lanten Yao Spiritual Warfare at the Margins of Chinese and Tai Politics. .... 58

蠻夷為熟、野林為征：中越邊陲政體之間的藍靛瑤靈界爭戰 ..... 59

香港大學 人文社會研究所 助理教授 Joseba Estevez (周思博)

香港大學 人文社會研究所 教授 David A. Palmer (宗樹人)

Riding spirit horses and paddling invisible boats: Mapping the Lanten cosmological landscape and the Lanten ritual experts' mind journeys. .... 60

駕靈馬、轉天船：藍靛瑤的靈界地圖與道師公的存思旅程 ..... 60

香港大學 人文社會研究所 助理教授 Joseba Estevez (周思博)

越南藍靛瑤和紅瑤的度戒儀式比較研究 ..... 61

ベトナムにおけるランテンヤオとホンヤオの度戒儀礼に関する比較研究 ..... 62

越南文化旅游应用研究院 院长 Tran Huu Son (陈友山)

越南文化体育旅游部 民族文化处 助理研究员 Nguyen Thi Hong (阮氏虹)

勉瑤挂灯仪式的结构、功能、意义及象征 ..... 63

—— 基于挂三灯、七星灯、十二盏大罗明月灯的考察

ミエンヤオ掛燈儀礼の構造・機能・象徴と意義 ..... 64

— 掛三燈・掛七星燈・掛十二盞大羅明月燈の考察に基づき —

广西民族大学 民族学与社会学学院 讲师 谭静

互动仪式链理论视角下过山瑶“杀年猪”文化的实践表达 ..... 65

Cultural Practices of Guoshan Yao' *Sha Nian Zhu*: An Analysis from the Perspective of Interaction Ritual Chains Theory ..... 66

广西民族大学 民族学与社会学学院 助理研究员 杨小君

过山瑶招郎入赘祭祖仪式的宗教人类学阐释 ..... 68

Interpretation of Religious Anthropology to uxorilocal marriage of Guo shan Yao ancestor worship ceremony ..... 69

南宁师范大学 学报编辑部 副研究员 玉璐

蓝山县荆竹瑶族乡散花仪式社会功能刍议 ..... 70

藍山県荆竹瑶族郷における散花儀礼の社会機能について ..... 70

四川大学 道教与宗教文化研究所 博士研究生 /

西南民族大学 外国语言文学学院 讲师 卢顺维

魂过“九州”：排瑶生命仪式中的帝国隐喻 ..... 72

Passing Through the "Nine Regions": Imperial Metaphors in the Life Rituals of the Pai Yao ..... 73

四川大学 道教与宗教文化研究所 博士研究生 张卓



## 開催にあたって

今回神奈川大学の2024年度国際交流事業に申請し『助成金を獲得して実施した(2006年～現在)ヤオ族関連研究成果最終報告会「ヤオの多面性と統一性」』が採択され、国際シンポジウム「ヤオの多面性と統一性」を開催する運びとなった。

ヤオ研究の拠点といえる、中国・香港・台湾・ベトナム・タイ・日本から多くの研究者がここ神奈川大学みなとみらいキャンパスに集い、積み重ねてきたヤオ研究の成果を発表し学術交流を行う。

このような貴重な機会が実現できたことは大変な喜びであるが、これは参加者各位のヤオ研究を前進させることへの熱意の証しといえる。心より感謝の意を表したい。

以下に国際交流事業に提出した企画書の文面により本シンポジウムの目的、意義、内容、期待される成果をまとめる。

### 目的および意義

#### ①中国湖南省永州市での調査

2008年11月に実施された最大規模の通過儀礼(度戒・トウサイ)の儀礼内容の把握と合わせ、儀礼で使用された大量の漢字経典および文書について、儀礼の実践と漢字経典の対応の明確化に努めた。2006年1月に馮家、2011年11月に大盤家、2015年12月に小盤家、2017年1月に趙家で実施された、中規模の通過儀礼(還家願・グワーダーン兼ゾウダーン)の儀礼内容および漢字経典の把握のほか、異なる親族集団の事例を収集した。2010年8月の葬送儀礼では小規模の儀礼内容および漢字経典を把握し、規模の異なる儀礼間の異同を確認するために必要な資料を得た。年中行事の送船儀礼調査(2012年3月)、春節調査(2013年2月)、言語調査(2014年3月・8月、2015年8月)を行った。

#### ②中国以外の地域での調査

タイ北部では通過儀礼調査(2014年1月、2018年11月)、ベトナムでは通過儀礼を含む複数の儀礼および漢字経典に関する調査(2015年3月・9月、2016年2月・8月、2017年2月・9月、2018年1月、2019年1月)を実施した。タイ・ベトナムでの通過儀礼(トウサイ・ゾウダーン・グワーダーン)および旧正月儀礼、架橋儀礼、神像画の開光儀礼の調査を通じ、儀礼に関する地域間の比較研究が必要であると認識を深めた。通過儀礼では盤王への祭祀において漢字経典の通称『盤王大歌』を読経する「歌堂」儀礼が実施されるが、この複数の異本を撮影した。さらに儀礼で使用される神像画の異なる祭司の所有する複数セットを撮影した。

#### ③ミエンの儀礼漢字経典収蔵機関での調査

バイエルン州立図書館(250件、2010年3月)、オックスフォード大学ボードリアン図書館(100件、2010年8月、2012年12月)、アメリカ議会図書館(45件、2014年9月)および南山大学人類学博物館(130件、2011年3月、2011年6月、2012年6月、2015年8

月)で調査を実施し、収集されたすべての漢字経典を把握するには至っていないものの、同一タイトルの異なる漢字経典の把握に努めた。

#### ④収集資料の整理

儀礼調査後、儀礼の程序を作成し、漢字経典の使用について明確化し、静止画・動画を組み入れる作業を行い、ヤオ族文化研究所のウェブサイトアップロードすることで研究者間で情報共有を行えるようにした (<https://www.yaoken.org/data-room/memonly/memonly-index.html>)。収集した漢字経典の翻刻を進め、同内容の複数本の比較対照を行い、ヤオ族文化研究所の刊行物『瑶族文化研究所通訊』等で公開を進めた。

以上①～④は、2008年度～2012年度科学研究費補助金 基盤研究 (B) 20401013、2012年度～2014年度科学研究費助成事業 基盤研究 (B) 24401018、2014年度～2015年度神奈川大学アジア研究センター共同研究「湖南省藍山県過山系ヤオ族の言語学的研究」、2016年度～2018年度神奈川大学共同研究奨励助成金「ヤオ族の儀礼における文献と読誦歌唱法の総合的研究」、2020年度～2023年度科学研究費補助金 基盤研究 (B) 20H01184「道教の比較研究から見るヤオ族儀礼文献学の構築」(研究代表:浅野春二)、2022年度～2025年度科学研究費補助金 基盤研究 (C) 22K01084「儀礼と神話 一多媒体で表現されるミエンの飄遙過海神話と儀礼システムの立体的研究一」を獲得して実施した。

本研究では音楽・言語・民俗・文化人類・宗教・歴史・美術・工学等を専門とする多分野の研究者が協同して多角的な研究分析を試み、この間数多くの研究成果をあげてきた。そればかりでなくヤオの文化認知を広げるための展示(2017年チューラーロンコーン大学、2018年復旦大学、2017年ユーラシア文化館企画展)を行ったり、現地の祭司(中国・ベトナム)や海外のヤオ研究者を招へいしての国際シンポジウム(2009年中国長沙、2010年横浜、2012年中国長沙、2015年横浜、2019年平塚)等行ってきた。研究成果は『瑶族文化研究所通訊』等で発表しているほか、ヤオ族文化研究所のウェブサイト (<https://www.yaoken.org/>) で公開に努めている。

2020年から現在まではコロナ禍の下、オンラインでの研究会を22回実施し、中国国内、香港、台湾等からも多くの研究者が参加している。この間「The 12th International Convention of Asia Scholars The“Tao Among the Yao”: Ethnographic and Textual Studies on the Rituals and Manuscripts of the Lanten Yao of Laos」(2021年8月)の参加をきっかけに香港大学のラオスのランテンヤオをフィールドとする研究チームとの交流が始まり、2023年8月25日・26日には香港大学との共同開催で、香港大學香港人文社會研究所において対面で「International Workshop on Yao Healing Rituals」を開催し、研究交流を継続している。中国のヤオ文化の研究拠点である広西民族大学との相互訪問を再開し、ヤオ族文化研究所のデジタル資料の提供(2022年9月)、講演の実施や研究成果に関する交流(2023年9月4日～12日)を進め、2024年3月には台湾輔仁大学においても研究交流を行った。

コロナ禍の下の研究交流を通じて、ヤオ儀礼文化がエスニックグループや居住地や親族集団の違いによって多様な面をもつ一方、共通して継承している面があることが分かってきた。世界観、靈魂観、人と神との関係性、死と再生を意図する儀礼等ヤオの個性的な特徴

を形成する統一性を持ちながら、その表現方法は極めて多彩である。「多面性と統一性」をテーマとするシンポジウムを通じて、多地域をフィールドとする多分野の研究者が研究成果を持ち寄り、大局的かつ深度のある議論を展開することで、ヤオの儀礼文化の本質を立体的に解明できると考える。

この20年にわたる共同研究の集大成となる研究発表の機会と位置づけている。

## 内容

参加メンバーは民俗学・民族学・文化人類学・歴史学・美術・音楽学・言語学・宗教学・文献学等の多分野の国籍も日本・中国・香港・台湾・タイ・ベトナム・欧米からなる専門家が揃い、ヤオの儀礼の実践とそこで使用される文献（経典・文書）、歌謡、音楽、神画、言語、教育、衣食住、生業、親族組織等について研究を積み重ねてきた面々である。発表内容はグループA「歌謡の諸相」、グループB「移住・方術・冥界などに関する会文献・儀礼文献」、グループC「生業・技術」、グループD「儀礼実践の諸相」の分野に分かれる。それぞれのグループにコメンテーターとして金文京氏、謝聰輝氏、佐野賢治氏、遠藤耕太郎氏をお願いしている。さらに中国湖南省永州市から招いた趙金付氏、盤栄富氏、盤保古氏、盤万古氏にも現役祭司としてご指導を頂く予定である。

関連展示として神奈川大学横浜キャンパスにおいて『常民文化ミュージアム 2024年度企画展「国境を越える民族のアイデンティティ—ヤオ族の儀礼と神像画—」』を開催し、ヤオ族文化研究所の所蔵する神像画を公開する。

## 研究面での期待される成果

ヤオの儀礼知識・儀礼文献は、多面的で豊富な内容をもつにも関わらず、解読すること自体が十分に実現してこなかった。極めて複雑な儀礼の実践内容とも関連させつつ、民俗学・文化人類学・歴史学・音楽・宗教学・道教研究・言語学の知見をつきあわせた多分野からの研究交流は、学術的に重要な成果を必ず上げ得ると考える。今回国内外からの参加者は、ヤオ研究の第一線で研究成果をあげている研究者であり、相互に研究交流を進めることでさらにヤオ研究を深めることになることを期待する。全世界のヤオ研究の拠点からの参加者による貴重な討論が予想される。特に多数の若手の研究者による発表はヤオ研究が今後さらに展開する可能性の表れといえる。本シンポジウムを契機に次世代へのスムーズな研究継承が実現すると期待する。

またヤオはベトナム・タイ・ラオスをはじめとする東南アジアやアメリカ等世界各地に分散して居住しており、この儀礼文献・文書の公開及び研究成果発表を通じてヤオ自身自民族の文化を再発見し、再評価することに繋がる。すでに本研究所の活動に刺激され、湖南省ヤオ族文化研究センターが設立されたほか、相同の儀礼知識を伝承してきたものの継承の危機を迎えているタイやアメリカのヤオが、度戒儀礼の資料の提供を望んでおり、ヤオの儀礼伝承に更なる展開が予想される。このような継承の危機にある儀礼と儀礼文献・文書を収集記録保存すること自体、ヤオの社会に留まらず人類文化の保存継承の観点からもその意義

は大きい。さらに蓄積された研究成果について内外の研究者と交流を行うことで国際的学際的な研究の振興に繋がると自負する。

今回の国際学会を通じて活動の成果を発信することで、さらにヤオの伝統文化の保存活用継承に資することになり、ヤオの儀礼文献をユネスコの世界記憶遺産に登録申請する動きを活発化することに繋がるとを望んでいる。

### 教育面での期待される成果

世界には独自の儀礼文化を継承する少数民族が存在し、その文化は人類文化遺産ともいえる貴重な価値をもち、その文化の保存・継承・活用が必要であることを学生が学修認知することにより、異なる文化を理解し尊重し、多様性を認める活動に参加することに繋がると期待する。

国際シンポジウム開催にあたり筑波大学名誉教授の丸山宏先生には種々なことをご相談させていただいた。準備段階から開催に向けて広西民族大学民族学与社会学学院の譚静氏、ヤオ研の岡本浩一氏にはさまざまにご尽力いただいた。

開催においては通訳に譚静氏、曹永梅氏、項青氏をお願いした。さらに卒業生の上野早也樹氏、廣田ゼミの面々の力が発揮されると思う。種々な方々の力が結集された国際シンポジウムの成功を信じたい。

6月吉日

ヤオ族文化研究所 所長 廣田律子

## 2024 年国际研讨会“瑶族的多面性与统一性”开幕致辞

在此次盛会的举办之际，我感到无比荣幸。经过精心筹备，我们成功申请了神奈川大学 2024 年度国际交流项目并获批，得以举办“获经费资助实施的（2006 年至今）瑶族相关研究成果最终报告会——〈瑶族的多面性与统一性〉”。此次国际研讨会的召开，是我们共同期盼已久的学术盛事。

作为瑶族研究的基地，此次汇聚了来自中国、香港、台湾、越南、泰国以及日本的众多学者，齐聚神奈川大学港未来校区，分享他们的研究成果，并在此进行深入的学术交流。为能够实现这样一次难得的学术聚会，我感到无比的荣幸和喜悦。我深知，这是所有参与者对瑶族研究充满热情和执着追求的最好证明。在此，请允许我向每一位与会者表达最诚挚的感谢和崇高的敬意。

接下来，我们将根据提交给国际交流项目的企划书，详细阐述本次国际研讨会的宗旨、意义、内容安排以及预期成果。

### （一）目的和意义

#### 1. 对中国湖南省永州市的调查

2008 年 11 月，我们对中国湖南省永州市举行的大规模通过仪式（度戒，Tousai）开展了调查。我们致力于理解仪式内容，为明确仪式实践与汉字经典的对应关系，对仪式中使用的大量汉字经典及文书进行了深入研究。此外，我们还分别在 2006 年 1 月对冯家、2011 年 11 月对大盘家、2015 年 12 月对小盘家，2017 年 1 月对赵家等不同家族举行的中等规模通过仪式（还家愿，Gua—Dann—兼 Zouda-nn）进行了详尽的调查，除了把握仪式内容和汉字经典之外，还收集了不同亲属群体的案例。2010 年 8 月，我们对丧葬仪式又进行了调查，考察了小规模仪式的内容和汉字经典，为明确不同规模仪式之间的异同获得了必要的资料。此外，我们还开展了对年节活动送船仪式的调查（2012 年 3 月）、春节的调查（2013 年 2 月）、以及语言的调查（2014 年 3 月、8 月，2015 年 8 月）。

## 2. 对中国以外地区的调查

2014年1月和2018年11月在泰国北部开展了通过仪式调查。2015年3月和9月、2016年2月和8月、2017年2月和9月、2018年1月、2019年1月，在越南对包括通过仪式在内的多种仪式及汉字经典开展了广泛的调查。通过对泰国和越南的通过仪式（Tousai、Zouda-nn、Gua-da-nn）以及农历新年仪式、架桥仪式和神像画开光仪式的深入研究，我们认识到了跨区域比较研究的重要性。在通过仪式中，我们特别关注了祭祀盘王时诵读汉字经典《盘王大歌》的“歌堂”仪式，并记录了多个异本。此外，还拍摄了多套不同祭司拥有的仪式神像画。

## 3. 对勉瑶仪式汉字经典收藏机构的调查

在对勉瑶仪式汉字经典进行的广泛调查中，我们对多个著名的收藏机构进行了访问和调查。2010年3月，在德国巴伐利亚州立图书馆，调查汉字经典共250件；2010年8月和2012年12月，在英国牛津大学博德利图书馆，调查汉字经典共100件；2014年9月，在美国国会图书馆，调查汉字经典共45件；2011年3月和6月、2012年6月、2015年8月，在日本南山大学人类学博物馆，调查汉字经典共130件。尽管我们未能对所有机构收藏的汉字经典完全把握，但已尽可能开展搜集并对具有相同题目的异本文献进行了比较研究。

## 4. 整理收集的资料

在仪式调查之后，我们对仪式程序做了详细的整理，明确了汉字经典的使用方式，并整合了静态图像与视频资料。这些成果已上传至瑶族文化研究所的网站（<https://www.yaoken.org/data-room/memonly/memonly-index.html>），以便研究人员共享信息。同时，我们对收集的汉字经典进行了翻印，并对比了相同内容经典的不同版本，相关成果已在瑶族文化研究所所刊《瑶族文化研究所通讯》等期刊上公开发表。

从2008年度至今，我们获得了多项科研经费的支持，以上列出的1至4是受2008-2012年度科研经费基础研究(B)20401013、2012-2014年度科研经费基础研究(B)24401018、2014-2015年度神奈川大学亚洲研究中心联合研究“湖南省蓝山

县过山瑶族语言学研究”、2016-2018 年度神奈川大学联合研究奖励资助“瑶族仪式文献与诵读歌唱法综合研究”、2020-2023 年度科研经费资助基础研究(B)20H01184“道教比较研究中的瑶族仪式文献构建”(项目负责人:浅野春二)、2022-2025 年度科研经费资助基础研究(C)22K01084“仪式与神话——以多媒体表达的勉瑶过海神话与仪式体系的立体研究”等项目资助取得的成果。

我们的研究团队,由音乐、语言、民俗、文化人类学、宗教、历史、美术、工学等多个领域的专家组成,他们协同合作,进行了深入的多角度研究分析,并取得了丰硕的成果。为了扩大瑶族文化的国际认知,我们举办了多场展览和国际研讨会,包括 2017 年在朱拉隆功大学、2018 年在复旦大学、2017 年在欧亚文化馆的策展,以及 2009 年在中国长沙、2010 年在横滨、2012 年在中国长沙、2015 年在横滨、2019 年在平冢等地召开的国际研讨会。相关研究除了在《瑶族文化研究所通讯》等刊物上发表外,我们还致力于在瑶族文化研究所的官方网站(<https://www.yaoken.org/>)上公开发表,以便更广泛地传播瑶族文化和学术成果。

2020 年至今,在新冠疫情的影响下,我们克服困难,成功举办了 22 次在线研讨会,吸引了来自中国大陆、香港、台湾等地区的众多学者参与。特别值得一提的是,2021 年 8 月,我们参加了“第十二届亚洲学者国际大会——‘瑶族中的道’:老挝蓝靛瑶仪式和手稿的民族志与考证(The 12th International Convention of Asia Scholars The“Tao Among the Yao”: Ethnographic and Textual Studies on the Rituals and Manuscripts of the Lanten Yao of Laos)”,这一契机促成了我们与香港大学老挝蓝靛瑶研究团队的交流。进一步地,在 2023 年 8 月 25 日至 26 日,我们与香港大学联合举办了“瑶族治疗仪式国际研讨会(International Workshop on Yao Healing Rituals)”,实现了面对面的深入研讨。此外,我们恢复了与中国瑶族文化研究重镇——广西民族大学的互访。2022 年 9 月,我所向广西民族大学提供了瑶族文化研究所的数字资料,并在 2023 年 9 月 4 日至 12 日在该校的民族学与社会学学院举办了讲座和研究成果交流会。2024 年 3 月,我们还将学术交流活动扩展至台湾辅仁大学。

通过疫情下的研究交流,我们认识到瑶族的仪式文化虽然因民族、居住地和亲属群体的不同而展现出多样性,但同时也存在着共同传承的元素。瑶族的世界观、

灵魂观、人神关系、以及关于死亡与再生的仪式等，这些个性化特征虽然构成了瑶族文化的统一性，但其表现方式却又是极其的丰富多彩。我相信，通过以“多面性与统一性”为主题的研讨会，能汇聚来自不同地区、不同领域的研究成果，将会引发更加全面而深入的讨论，从而立体地揭示瑶族仪式文化的本质。

我们期待将这些研究精华作为 20 年来共同研究的综合性成果，通过这次研究发表的机会，为学术界和公众提供宝贵的见解和知识。

## （二）会议内容

### 1. 参加成员

本次研讨会汇聚了来自民俗学、民族学、文化人类学、历史学、美术、音乐学、语言学、宗教学、文献学等多个学科领域，来自日本、中国、香港、台湾、泰国、越南以及欧美等不同国家和地区的专家学者。他们对瑶族的仪式实践、文献（包括经典和文书）、歌谣、音乐、神画、语言、教育、日常生活、生计方式、亲属关系等方面有着丰富的阅历和深入的研究。

### 2. 发表内容与评论员

研讨会的发表内容被划分为四个主题小组：A 组“歌谣的各种形态”、B 组“关于迁徙、方术、冥界的社会文献和仪式文献”、C 组“生产技术”、D 组“仪式实践的各种形态”。我们荣幸地邀请到了金文京、谢聪辉、佐野贤治、远藤耕太郎等知名学者担任各组的评论员，以期为讨论增添深度与广度。同时，我们也特别邀请了来自中国湖南省永州市的赵金付、盘荣富、盘保古、盘万古等资深祭司，他们将以专业视角为我们提供现场指导。

### 3. 相关展览

作为本次研讨会的一部分，将在神奈川大学横滨校区举办《常民文化博物馆 2024 年度特别展“跨越国界的民族认同——瑶族的仪式与神像画”》，届时将展出瑶族文化研究所收藏的神像画，向公众展示瑶族文化的深厚底蕴和独特魅力。

### **（三）研究方面的预期成果**

#### **1. 瑶族仪式知识与文献的解读与研究交流**

尽管瑶族的仪式知识和文献内容丰富多彩，但对其深入解读的工作尚未充分展开。我们相信，结合民俗学、文化人类学、历史学、音乐学、宗教学、道教研究以及语言学等多学科的研究成果，对这些极其复杂的仪式实践开展综合研究，必将产生重大的学术价值。

#### **2. 国内外研究者的期待与年轻研究者的活力**

本次研讨会汇聚了来自国内外、活跃在瑶族研究前沿的专家学者。我们期待通过彼此间的深入交流，进一步推动瑶族研究的发展。特别是，众多年轻研究者的参与和发表，预示着瑶族研究未来的发展和创新。我们期望本次研讨会能成为把知识传承给下一代的重要契机。

#### **3. 瑶族文化的全球意义与传承**

瑶族分布在中国和越南、泰国、老挝等东南亚国家以及美国等地，通过公开仪式文献和发表研究成果，有助于瑶族人民重新发现本民族文化的价值，并对其进行新的评价。受我所研究活动的启发，湖南省成立了瑶族文化研究中心。此外，泰国和美国的瑶族社区，尽管继承了相似的仪式知识，但同样也面临着传承的危机，他们期望通过提供度戒仪式的资料来促进对本民族仪式文化的传承。我们认为，收集、记录和保存这些面临失传风险的仪式和文献，对于瑶族社会乃至全人类文化的保存和传承都具有重大意义。我们深感自豪，能够通过与全球各地的学者分享我们的研究成果，促进国际间的跨学科对话与合作，共同推动学术研究向纵深发展。

#### **4. 国际学术交流与世界记忆遗产的申请**

我们期望借助本次国际研讨会展示近年来我们取得的研究成果，进一步为瑶族传统文化的保存、利用和传承做出贡献，为瑶族仪式文献申报联合国教科文组织世界记忆遗产注入活力。

#### （四）教育方面的预期成果

在世界各地，尚存在着许多继承了独特仪式文化的少数民族。这些文化不仅是他们自身的宝贵财富，也是全人类文化遗产的一部分。我们期望通过教育，使学生们能够深刻认识到这些文化的价值，并理解其保存、传承和活化的重要性。我们希望学生们能够学会尊重不同的文化，积极参与到促进文化多样性的活动中去。

在筹备本次国际研讨会的过程中，我们荣幸得到了筑波大学名誉教授丸山宏先生的宝贵建议和指导。从最初的准备阶段到研讨会的成功举办，广西民族大学民族学与社会学学院的谭静以及瑶族文化研究所的冈本浩一先生都付出了巨大的努力和贡献。

为确保研讨会的顺利进行，我们特别邀请了谭静、曹永梅和项青三位老师担任会议的翻译工作。此外，毕业生上野早也树先生，以及广田研究小组的成员们也将在此次研讨会中发挥他们的才华和能力。我坚信，凭借各方的共同努力和协作，本次国际研讨会一定能够取得圆满成功。

2024年6月吉日

瑶族文化研究所 所长 广田律子

国際シンポジウム「ヤオの多面性と統一性」

開催日：2024年10月11日

会場：神奈川大学 みなとみらいキャンパス 1F 米田吉盛記念ホール

グループ A 「歌謡の諸相」

A 組 「歌謡的各種形態」

## 「ベトナム瑶族「韓朋伝」と敦煌本「韓朋賦」及び新発見唐代写本について」

金文京

2019年、中国新疆ウイグル自治区尉犁県の唐代烽燧遺址から、唐の玄宗、開元二年（714）に書写された写本が発見された。その中に韓朋の故事を記した残片一紙六行があった。韓朋とその妻、貞夫の悲劇的物語は、古く前漢竹簡、後漢の銅鏡、武氏祠画像石をはじめ魏文帝『列異伝』逸文、干宝『搜神記』などに見えるが、もっともよく知られているのは敦煌出土の「韓朋賦」である。今回発見された写本残片は、「韓朋賦」と字句が共通しており、同系統と思えるが、韓朋の妻、貞夫が宋に赴く時、箱を姑に渡し、この箱を開けなければ自分は帰れると言ったにもかかわらず、姑が開けてしまい帰れなくなったという敦煌「韓朋賦」にはない話がある。ところがこの話は、ベトナム瑶族の「韓朋伝」に同じ内容があり、注目される。本発表では、新発見の唐代写本と瑶族の「韓朋伝」の内容を比較し、さらに日本における類似の説話についても言及するつもりである。

### 〈关于越南瑶族《韩朋传》与敦煌本《韩朋赋》以及新发现唐代抄本〉

2019年，中国新疆维吾尔自治区尉犁县的唐代烽燧遗址中，发现了唐玄宗開元二年（714）抄本若干种。其中有记载韩朋故事的残片一紙六行。韩朋与其妻貞夫的故事、见于前汉竹简、后汉铜镜、武氏祠画像石，以及魏文帝《列異传》逸文、干宝《搜神记》等，最有名的是敦煌的《韩朋賦》。新疆发现的抄本残片，与敦煌《韩朋賦》有字句相同之处，当可视为同一系统。可是韓朋妻貞夫赴宋宮时，把箱子交给韩朋之母，嘱咐千万不要打开，可是韩朋之母打开箱子，以致貞夫不能回来，发生悲剧。此一情节不见于敦煌《韩朋賦》，却见于越南瑶族《韩朋传》。本发表将新发现的唐代抄本与越南瑶族《韩朋传》的相关部分内容进行比较。附带提及此一情节对日本古代文学的影响。

# 越南瑤族《英台古》整理與研究

郭正宜

副教授

(韶關學院 文學與傳媒學院，廣東 韶關 512005)

## 摘要

筆者近年在越南收集不少越南瑤族《英台古》故事歌謠，本文謹簡明扼要地介紹並講解其中一本《英台古》故事歌謠。此《英台古》手抄本並非單獨一個手抄本，而是夾雜在其他儀式文本之中；同時此抄本存在著土俗字、錯簡等相關問題，使得閱讀該文本，產生一些理解的難度。因此，重新梳理該《英台古》文本，有一定的重要性。其次，該《英台古》故事情節複雜，增加許多故事情節，略有不同於漢地傳統的認知。本文謹重新整理其文本順序，並通過該《英台古》說明越南瑤族梁祝故事情節，藉此說明越南瑤族《英台古》故事情節及其衍異。

關鍵詞：越南、瑤族、英台古、民間故事

## Collation and research of the "Yingtai Gu" of the Yao in Vietnam

### Abstract

In recent years, the author has collected a number of stories and ballads of the Yao people in Vietnam, and this article would like to briefly introduce and explain one of the stories of the "Yingtai Gu". This "Yingtai Gu" manuscript is not a single manuscript, but is interspersed with other ritual texts; At the same time, there are problems related to vernacular characters and missimplifications in this manuscript, which makes it difficult to understand the text. Therefore, it is of certain importance to reorganize the text of the "Yingtaigu". Secondly, the storyline of "Yingtai Gu" is complex, and many storylines are added, which is slightly different from the traditional perception of China. In this article, we would like to rearrange the order of the texts and explain the storyline of the Liang Zhu of the Yao nationality in Vietnam through this "Yingtai Gu", so as to explain the storyline of the "Yingtai Gu" of the Vietnamese Yao people and its derivation.

Keywords: Vietnam, Yao nationality, "Yingtaigu", folk tale

# 故事歌在瑤族的流傳一

## 以廣西〈舜兒古記〉與越南〈舜兒古篆記〉為例

鄭美惠\*

### 【摘要】

瑤族原是中國南方的山地民族，大多散居在海拔 1000 公尺左右的高山林區，部分居住在生態環境比較惡劣的大石山區，少部分與漢族雜居在山坡邊緣的丘陵或河谷地帶。明末清初之際，部分瑤族從廣東、廣西向雲南、貴州遷徙；一部分瑤族則經廣西、雲南進入越南、寮國。

當瑤族從中國進入越南時，帶去了許多民間文獻，越南學者將其稱為「越南瑤族古籍」。這些越南瑤族民間文獻大多是用漢字抄寫，亦有部分則是使用「土俗字」。在眾多的越南瑤族民間古籍中，亦可見有豐富的越南瑤族敘事歌謠。「敘事歌謠」為講述一個故事的傳統民歌，具有一個清晰的故事。

2009 年，越南老街省文化體育旅遊廳將在老街省等地收集到的 9648 本瑤族民間文獻進行分類、整理後，再加以掃描、影印與篩選，出版了 *Sách Cổ Người Dao* 一書。書名之中文意指為《瑤人古書》，由越南河內國家民族文化出版社所出版。

〈舜兒古篆記〉(Truyện Thuận Nhi)，便是 *Sách Cổ Người Dao* (《瑤人古書》) 中收錄的一則敘事歌謠，故事內容講述舜兒在登基為帝前遭受繼母虐待等等情節。無獨有偶，廣西瑤族也流傳有相似的故事——〈舜兒古記〉。舜為中國上古時代五帝之一，有孝感動天的相關傳說。而廣西瑤族古歌〈舜兒古記〉、越南瑤族古籍〈舜兒古篆記〉則皆保留有詩歌體的樣貌，正好作為不同文類「異本」之呈現。上述兩者除了在表現形式上與中國傳統漢文學不同之外，情節的變異亦有所差別。從這些差異當中，將可見同類主題故事在不同文化 / 地域間呈顯之特色與意義。

關鍵詞：越南瑤族、民間古籍、敘事歌謠、舜

---

\* 臺灣·國立臺中科技大學通識教育中心助理教授

## 故事歌の瑤族における伝承一

広西の「舜児古記」とベトナムの「舜児古篆記」を例に挙げる

鄭美恵

### 【要旨】

瑤族（Yao 族）はもともと中国南部の山岳民族であり、ほとんどが海拔約 1000 メートルの高山林地に散在しています。一部は生態環境が厳しい大石山地域に住んでおり、少数は漢族と山の斜面や丘陵、または河谷地帯で混住しています。明末清初の時期には、一部の瑤族が広東や広西から雲南や貴州へ移住しました。また、一部の瑤族は広西や雲南を經由してベトナムやラオスへと移動しました。

瑤族が中国からベトナムに移住する際、多くの民間文献が伝えられ、ベトナムの学者たちはこれを「ベトナム瑤族古籍」と称しました。これらのベトナム瑤族民間文献の多くは漢字で書かれており、一部は「土俗字」を使用しています。ベトナム瑤族の多くの民間古籍の中には、豊富な瑤族の叙事歌謡も見られます。「叙事歌謡」とは、一つの物語を語る伝統的な民謡であり、明確な物語を持っています。

2009 年、ベトナムのラオカイ省文化体育観光局は、ラオカイ省などで収集された 9648 冊の瑤族民間文献を分類し整理し、それらをスキャンし、複製し、選定した後、『Sách Cổ Người Dao』という書を出版しました。この書名は中国語で『瑤人古書』を意味し、ベトナムのハノイ国家民族文化出版社から出版されました。

「舜児古篆記」(Truyện Thuần Nhi) は『Sách Cổ Người Dao』(《瑤人古書》) に収録されている一つの叙事歌謡であり、物語は舜児が帝位に即く前に継母から虐待を受けるなどの情景を描いています。偶然ではありませんが、広西の瑤族も同様の物語を伝えており、それが『舜児古記』です。舜は中国古代の五帝の一人であり、孝行が天を感動させる伝説があります。広西瑤族の古歌『舜児古記』と、越南瑤族の古籍『舜児古篆記』はどちらも詩歌の形式を保持してお

り、異なる文類の「異本」としての特性を示しています。これらの二つは、中国の伝統的な漢文学とは異なる表現形式だけでなく、物語のプロットの変遷にも差異があります。これらの違いから、同じテーマの物語が異なる文化や地域でどのように表現されるか、その特色や意味が見えてきます。

キーワード：ベトナムのヤオ族、手書き文書、叙事歌謡、舜

## タイにおけるミエンの歌における歌謡語語彙の特徴について

吉野 晃

東京學藝大學名譽教授

中国南部と大陸東南アジア北部に分布するミエン(ヤオ)は、Hmong-Mien 語族のミエン語を母語としている。彼らの言語使用は複雑であり、口語、儀礼語、歌謡語、漢語雲南方言がある。口語は通常の会話で用いられるミエン語である。儀礼語は *tɕiə˥wa˥* と呼ばれ、ミエンの説明では広東語である。儀礼に用いられる言語は、儀礼語、漢語雲南方言と口語である。これらの言語は儀礼の格に応じて使い分けられる。

歌謡語は *ɕuŋ nei wa˥* という。意味は「歌の言葉」である。「歌謡語」は、口語と異なる言語ではない。口語語彙とは異なる文語語彙の集合を *ɕuŋ nei wa˥* といっているのである。実際の歌詞には、歌謡語語彙が多く入るが、口語語彙も入っており、新しい漢語語彙やタイ語語彙が入ることもある。歌謡語語彙と口語語彙が漢字で書かれるときには、発音の似ている漢字を宛字するため、字面だけ読んでも意味が分からない。即ち、歌謡語と口語の両方を知らなければ漢字で書かれた歌詞は理解できない。本発表では歌の種類によって、字面だけでは意味不明の語彙の割合が異なることを示す。

更に、発表者は二冊のミエン語-英語辞典から 800 語以上の歌謡語を抽出した。更に現地調査によって、辞典にない語彙を収集した。本発表では、それらの作業に基づいて、ミエンの歌謡語の特徴を述べる。

- 1)歌詞で用いられる語彙は、1.歌謡語語彙、2.口語語彙、3.漢語語彙である。
- 2)個々の歌謡語語彙の由来を語彙素性という。歌謡語の語彙素性としては 1,漢語語彙、2.口語語彙(口語由来だが歌に特化した意味となっている)、3.由来不明の語彙がある。
- 3)漢語語彙は複数の音があり、日本語の漢字の音に漢音と呉音があるように、一字多読となっている。ミエン語が漢字語彙を借用した時代的層がある。これが漢語上古層と漢語中古層に分かれる。本発表では、これまでに採集された歌謡語語彙の語彙素性をあきらかにしてゆきたい。

## Characteristics of the song-language vocabulary of Mien songs in Thailand

Dr. Akira YOSHINO

Professor Emeritus

Tokyo Gakugei University

The Mien (Yao), distributed in southern China and northern Mainland Southeast Asia, speak the Mien language, which is classified into the Hmong-Mienic family. Their language usage is complex, and includes colloquial language, ritual language, song language and Chinese Yunnan dialect. Colloquial language is the Mien language used in normal conversation. The ritual language is called *tsiəˆ wa:*, and the Mien say it is Cantonese. The languages used in rituals are ritual language, Chinese Yunnan dialect, and colloquial language. These languages are used differently depending on the status of the rite.

Song language is called *dzuŋ nei wa:*. It means "song language." "Song language" is not a language different from colloquial language. *Dzuŋ nei wa:* refers to a collection of literary vocabulary that is different from colloquial vocabulary. Actual lyrics contain many song language words, but also colloquial language words and sometimes new Chinese words and Thai words. When song language words and colloquial language words are written in Chinese characters, Chinese characters with similar sounds are used, so the meaning cannot be understood by reading only the characters. In other words, lyrics written in Chinese characters cannot be understood unless you know both song language words and colloquial words. This presentation will show that the proportion of vocabulary whose meaning is unclear from the characters alone varies depending on the type of song.

Furthermore, I extracted more than 800 song language words from two Mien-English dictionaries. Furthermore, through field surveys, song language words not found in the dictionaries were collected. Based on these efforts, this presentation will describe the characteristics of Mien song language vocabulary.

- 1) Vocabulary used in lyrics is; 1. song language words, 2. colloquial words, and 3. Chinese words.
- 2) The origin of each song language word is called a lexical feature. The lexical features of song language words are; 1. Chinese words, 2. Colloquial language words (originating from colloquial words, but with a meaning specific to songs), 3. Vocabulary of unknown origin.
- 3) Just as Chinese characters in Japanese language have their sounds in *kan-on* 漢音 and *go-on* 呉音, each Chinese character has multiple sounds in Mien language. There are historical strata in which Mien borrowed Chinese vocabulary. These are divided into the

Ancient Chinese stratum and the Middle Chinese stratum. In this presentation, I would like to clarify the lexical features of the song language vocabulary that has been collected so far.

## 中国藍山県「盤王願」に見る歌娘と師父の歌

神奈川大学 教授 廣田律子

### 要旨

「盤王願」(ピエンフンニョオン)は前半の男性が祭司となる掛灯(グワードーン)と後半の盤王への謝恩を行う歌堂(ガダーン)からなる還家願(ジャビョウニユン)儀礼の後半部分の儀礼大項目である。

「盤王願」は、順に添香・剪花酒・意者・請盤王・請家先・流楽・唱盤王大歌・送王の小項目で進められる。このとき師父は『大歌書』等、また歌娘は『慶盤王歌書』を詠唱する。歌書は共に七言で構成され、漢語由来の語や漢字の意味通りの文字が使用され表記されている<sup>i</sup>。ヤオ語の音を当てた漢字表記も見られる。音訓を付すにあたって独自の法則があると考えられる<sup>ii</sup>。内容的に同一の歌詞が歌われる場面もあるが、同じ内容には聞こえないほど、全く別の音訓を付し、異なる曲節で詠唱される。師父の歌はチャンガーとされ歌娘の歌はバーゾォンとされる。歌は歌神劉三姐から神の声や歌書を渡され始められるとされる。

師父と歌娘の歌書の内容のそれぞれの特徴は、師父の歌書にはヤオの神話伝承(天地創造・飄遙過海・兄妹婚・洪水・ヤオの誕生・天変地異・諸王の所業等)が豊富に含まれるが、歌娘の歌書には歌堂の儀礼を進行する流れ(盤王を迎え、願ほどきをし送り出す)が述べられている点にある。

師父と歌娘がお互いの歌の詠唱を前提として歌い進め、決められた場面で同一の歌詞を詠唱することもある。それぞれのパートを歌う目的は盤王を代表とする神々を言祝ぎ、慶賀し謝恩する意思を表現することで一致しているといえる。

儀礼の実践とも呼応しながら男女異なる歌書を詠唱することで一つの儀礼空間が完全になる。このような複雑で多様な方法で神を慶ばせる構成を考えるのはミエンの真骨頂といえる。盤王への慶賀を言葉と曲節と儀礼実践で表現することが最高の表現とされ、これを通してミエンとしての絆を確認することになる。

<sup>i</sup> 真下厚・遠藤耕太郎・波照間永吉編『東アジアの歌と文字』勉誠社 2021年3月 202p. に最先端の研究が見える。

<sup>ii</sup> 吉野晃「タイ北部のミエンにおける歌と歌謡語(7) — 「趙富安旺的歌」の発音と注釈 —」『瑶族文化研究所通説』第10号 ヤオ族文化研究所 2024年3月 pp.88-89 表記の説明部分に詳しい。

# 中国蓝山县“盘王愿”中所见歌娘和师父的歌

神奈川大学 教授 广田律子

## 摘要:

还家愿（JIA BIXYOU NIXYUNN）由前后两个部分组成，前半部分是男性成为祭司的挂灯（GUA-DA-NN），后半部分则是对盘王谢恩的歌堂（GADA-NN）。“盘王愿”（BIENN FUNN NIXYOONN）是该仪式后半部分的一个仪式项目。

“盘王愿”依次按照添香、剪花酒、意者、请盘王、请家先、流乐、唱盘王大歌、送王等仪式小项进行。在仪式中，师父要吟诵《大歌书》等，歌娘也要吟诵《庆盘王歌书》。歌书由七言构成，使用汉语词汇和符合汉语意思的文字来书写<sup>①</sup>，也可以看到用汉字表示瑶语发音的情况，通常认为在附加音训时有其特有的规则<sup>②</sup>。内容上，虽然有吟诵相同歌词的情况，但却听不出是同一内容，而且附加了完全不同的音训，以不同的曲调进行吟诵。在勉语中唱歌有不同的说法，师父唱歌被叫做 CANG GA，歌娘的则被称为 BA-ZUONN。据传说，歌最初是由歌神刘三姐传递的神的声音和歌书为发端的。

从内容来看，师父和歌娘的歌书各具特点。师父的歌书中承载了丰富的瑶族的神话传说（创造天地、飘过海、兄妹成婚、洪水、瑶族的诞生、天地异变、诸王功绩等），而歌娘的歌书中则叙述了歌堂仪式的过程（迎接盘王、还愿和送神）。

演唱时，师父和歌娘都以相互吟诵各自负责的歌词作为前提。但是，在有些规定的场合下，他们也会吟诵同一段歌词。演唱各个部分的目的可以说是完全一致的，也就是要向以盘王为代表的众神表达恭贺和感谢之情。

与仪式实践相呼应，通过男女各自吟诵不同的歌书，使得一个仪式空间趋向完整。勉瑶费尽心思建构这种复杂多样的方式来庆贺神灵，真可谓不同凡俗。把对盘王的祝贺用语言、曲调和仪式实践做整体呈现是至高无上的，也是瑶族确认自身瑶族身份的重要表现。

① 参见真下厚，远藤耕太郎，波照间永吉[编]《东亚的歌和文字》。勉诚社。2021年3月。第202页，“可见其最尖端的研究”。

② 在吉野晃：“泰北勉瑶的歌和歌谣语（7）-「赵富安旺的歌」的发音和注释-”《瑶族文化研究所通讯》第10号。瑶族文化研究所。2024年3月。第88-89页中有详细的说明。



国際シンポジウム「ヤオの多面性と統一性」

開催日：2024年10月11日

会場：神奈川大学 みなとみらいキャンパス 1F 米田吉盛記念ホール

グループ B 「移住・方術・冥界など  
に関する社会文献・儀礼文献」

B 組 「关于迁徙、方术、冥界的社会  
文献和仪式文献」

瑤族經書儀式中的道教法術  
Taoist methods and  
arts in Yao manuscripts and rituals  
四川大學道教與宗教文化研究所 張澤洪教授  
Institute for Studies of Daoism and Religious Culture of Sichuan University  
Prof Zhang Zehong

瑤族經書包括經典、科儀、疏表、秘語、歌書、神唱等文書類，經書中的科儀、疏表、秘語是師公做儀式的文本依據。隨歷史上道教在瑤族社會的傳播，道教齋醮的法術科儀為瑤族所汲取，從而豐富了瑤族宗教儀式的內容。瑤族經書儀式中的道教法術，是國際瑤學研究值得討論的問題。論文從瑤族宗教的法術秘語，瑤族宗教經書中的咒訣神符，瑤族經書中的步罡法術三個維度展開，以討論瑤族經書儀式中所見的道教法術。秘語是瑤族師公在儀式中使用的法術，藍靛瑤的道派、師派皆有秘語，秘語在儀式中與科儀本配合行用。瑤族宗教經書的秘語是法術的一種，一些瑤經甚至以秘語作為經名。老撾藍靛瑤經書中傳承的秘語甚為豐富，大英圖書館藏 EAP791 號瑤族經書中的秘語就多達數十本。瑤族的秘語受道教影響較多，道教靈寶派的中黃秘語為靈寶法術之一。陝西整屋有全真開教秘語碑，金代全真宗師王重陽在傳教過程中，就曾以秘語傳授弟子。瑤族宗教經書中的咒訣神符，在瑤族宗教儀式中有廣泛行用。瑤族宗教經書中的咒訣神符的不同格式，豐富了瑤族宗教儀式壇場的內容，生動表達瑤人對道教神靈和民間土俗神的崇信。瑤族宗教的咒訣神符汲取道教法術，而道教有經乃法之本，法乃經之用之說。瑤族經書的行罡之說來自道教，高功在壇場行步罡踏斗之科儀稱為行罡。通過瑤族經書儀式中道教法術的討論，有力說明瑤族是西南少數民族中受道教影響最深的族群。

The Yao manuscripts encompass a diverse range of texts, including the Canonical Texts (經典), Liturgical Texts (科儀), Statements and Memorials (疏表), Secret Instructions (秘語), Song Books (歌書), Sacred Singing (神唱) and other types of texts. Of particular interest are the Liturgical Texts, Statements and Memorials, and Secret Instructions, which serve as the textual basis for the rituals performed by the masters (師公). The dissemination of Taoism within the Yao society has led to the adoption of Taoist Zhai and Jiao rituals by the Yao people, thereby enhancing the content of their religious ceremonies. The study of the Taoist methods and arts as presented in the Yao manuscripts and rituals represents a significant area of interest for international research in the field of Yao studies. In this article, we commence with an examination of three key dimensions: the Secret Instructions, the Spells and Talismans (咒訣神符), and the techniques of "Walking along the guideline" (步罡法術) as outlined in the Yao manuscripts. This will facilitate an investigation into the methods and arts associated with Taoism as evidenced in the Yao manuscripts and rituals. The Secret Instructions are utilized by the Yao masters during their ceremonial practices. Both the Taoist (道派) and Shihist (師派) sects of the Indigo Yao (藍靛瑤) possess secret Instructions that are integrated

with the Liturgical Texts during the rituals. These Secret Instructions found in the manuscripts of the Yao encompass various methods and arts, with some Yao manuscripts incorporating the Secret Instructions directly into the text's title. The Landian Yao manuscripts from Laos contain numerous Secret Instructions, with a significant presence in the British Library's collection of Yao scriptures, EAP 791. These Secret Instructions of the Yao community exhibit a strong influence from Taoism. Among the Lingbao School of Taoism practices, the Middle Yellow Secret instructions (zhonghuang miyu) stand out as a noteworthy method and art. In Zhouzhi, Shaanxi Province, there exists a monument dedicated to the Secret Instructions of Quanzhen, utilized by Wang Chongyang, the founder of Quanzhen, for instructing his followers in the Jin Dynasty. The spells and talismans in the Yao manuscripts are employed extensively in the religious ceremonies of the Yao people. The diverse forms have enhanced the contents of the ritual altars of the Yao religion and have served to vividly express the Yao people's faith in the Taoist deities and the folk deities of the local community. The spells and talismans of the Yao religion are inspired by the Taoist methods and arts, which posit that the scriptures serve as the foundation for the methods and that the methods are the practical application of the scriptures. The practice of "Walking along the Guideline" in the Yao manuscripts is derived from Taoism, in which a high priest performs a ritual called "Xingang" which involves Walking along the Guideline and Treading on the Dipper. The discussion of Taoist methods and arts in the Yao manuscripts strongly suggests that the Yao people are the most deeply influenced by Taoism among the ethnic minorities in the Southwest China.

# 《祖图》：记载泰国瑶族迁徙路线、时间的民间文献

## ——域外瑶族《祖图》研究之二

玉时阶<sup>1</sup> 玉璐<sup>2</sup> (泰) 刘玉兰<sup>3</sup>

**摘要：**《祖图》是瑶族为了追本溯源，记载历代祖先宗教法名及其安葬地点的族谱。明清之后，部分瑶族从中国迁徙到东南亚及欧美，其中，泰国是瑶族从东南亚进入欧美的一个重要节点与中转站。泰国瑶族《祖图》记载了每个泰国瑶族家族历代祖先的安葬地点、离开中国的时间及在泰国居住了多少代人。《祖图》承载着每个泰国瑶族家族对本民族历史文化与中国历史文化的记忆，既反映了瑶族从中国进入泰国的具体迁徙路线与时间，是研究世界瑶族历史的重要民间文献，也反映了泰国瑶族对祖籍国的深深眷恋与执着的中华民族身份认同。研究泰国瑶族《祖图》，不仅具有重要的文化人类学价值，为全面、系统地研究域外瑶族历史文化提供新的研究路径，而且探讨了瑶族从中国走向世界、认识世界、与世界各国民族交往交流交融的过程，为讲好中国与东南亚跨境民族的“中国故事”提供了一份生动的素材。这不仅对中国与东南亚各国在“一带一路”倡议合作中实现“学术合作共赢”具有重要的学术意义，而且对构建中国—东盟命运共同体具有重要现实意义。

**关键词：**泰国瑶族；《祖图》；迁徙路线与时间；交往交流交融；

[作者]：1. 玉时阶，广西民族大学瑶学研究中心教授，地址：南宁市，邮编 530006；

2. 玉璐，南宁师范大学学报编辑部编辑，副研究员，博士，地址：南宁市，邮编 530001。

3. 刘玉兰，泰国清莱皇家大学社会学院，讲师，博士。

***Zu Tu***: a folk literature of migration route-and-time records of Yao in Thailand  
—— Overseas study on *Zu Tu* of Yao ethnic group II  
Yu Shijie<sup>1</sup> Yu Lu<sup>2</sup> (Thailand) Liu Yulan<sup>3</sup>

**Abstract:** *Zu Tu* is a genealogy of Yao in order to trace their origin and record the religious names and burial places of their ancestors. After Ming and Qing Dynasties, some Yao migrated from China to Southeast Asia, Europe and America, among which Thailand was an important node and transit station for Yao to enter Europe and America from Southeast Asia. *Zu Tu* of the Yao in Thailand records the burial places of the ancestors of each family, the time they left China and the number of generations in Thailand.

*Zu Tu* Carrying the memory of each Thai Yao family's own history and culture as well as Chinese history and culture. It not only reflects the specific migration route and time of the Yao from China to Thailand, so that it is an important folk document for the study of the history of the Yao in the world. But also it reflects the deep attachment of the Yao in Thailand to their ancestral country and their persistent Chinese national identity.

The study of *Zu Tu* of the Yao in Thailand not only has important value of cultural anthropology, providing a new research path for a comprehensive and systematic study of the history and culture of the overseas Yao, but also explores the process of the Yao migrating from China to the world, understanding the world, communicating, exchanging and integrating with the other ethnic groups in the world, which provides a vivid material for telling well a "Chinese story" of cross-border ethnic groups between Southeast Asia and China. It not only has important academic significance for achieving "win-win academic cooperation" between Southeast Asian countries and China in the Belt and Road Initiative, but also has important practical significance for building China-ASEAN community with a shared future.

Key words: Yao in Thailand; *Zutu*; Migration route-and-time; Interactions, exchanges and integration among all ethnic groups

Author:

1. Yu Shijie, Professor, The Yao Study Centre of Guang Xi Minzu University.

2. Yu Lu, Associate Researcher, Phd, Nanning normal university Editorial Department of the journal.

3. Liu Yulan, Lecturer, Phd, Social Science College of Chiang Rai Rajabhat University.

## 《祖图》：泰北优勉（瑶族）祖先的迁徙路线——以盘姓氏、邓姓氏为例

刘玉兰、宋巴 泰国清莱皇家大学社会学院

**摘要：**本研究旨在分析泰国北部瑶族的迁徙路径与聚居地，特别聚焦于居住在清迈、清莱、碧瑶、楠府和南邦府的两个姓氏家族——盘姓和邓姓。通过对 20 份祖图的细致研究，我们发现这些祖图或墓志铭不仅记录了地名和迁徙路线上的关键地点，更揭示了中国、越南、老挝和泰国瑶族之间深厚的祖先联系。尽管在现代社会的背景下，这种血缘和文化联系可能看似与地区人民的日常生活关系不大，但在后现代社会和数字技术转型的新时代背景下，这种联系的意义已经远远超越了单纯的族群认同。它不仅深刻影响着该地区各国政府间政治经济合作的政策制定，更成为了推动地区人民经济社会可持续发展的重要文化资本。特别是对于瑶族人民而言，这种文化资本在促进地区内人民之间的友谊、理解和合作方面发挥着至关重要的作用。它为瑶族人民提供了一种独特的社会网络，有助于促进经济和社会的持续发展，尤其是在泰北定居的优勉（瑶族）与中国瑶族人民之间的关系。

**关键词：**优勉（瑶族）、祖图或墓葬记载，民族迁徙与定居。

### “Zu Tu”, Migration Routes Recorded of the Yao Ancestors in Northern Thailand : A Case Study of the Pan and Deng Clans

Thanyalak Saeliao, Ph.D. and Sombat Boonkhamyueng, Ph.D.  
Faculty of Social Sciences, Chiang Rai Rajabhat University

#### Abstract

This article aims to analyze the migration routes and the settlements of the Iu-Mien (Yao) people in northern Thailand which choosing to study and analyze on the 20 grave records (祖图, Zutu) of 2 families who have been living in Chiang Mai, Chiang Rai, Phayao, Nan and Lampang provinces. The grave records not only points out a toponym (地名, Diming) or the name of a place along the migration routes but also it confirm an ancestral connections among the Iu-Mien (Yao)

in China, Vietnam, Lao and Thailand. In the context of modern society, this relationships may be not significance for the friendship and mutual prosperity of the people in the region, but in the context of post-modern society and the era of digital technology transformation, this relationship is not only congruence with the political and economic cooperation policy of the governments of that region, but it is a cultural capital which shall be bring about to sustainable development of economic and society among the people of that region, particularly the relationship between the Iu-Mien (Yao) who have been living in Northern Thailand and Southern China.

**Keywords:** Iu-Mien (Yao), grave records, migrations and settlements of ethnic groups.

2024年10月11日報告要旨(丸山)

ヤオ族儀礼文献研究試論 ―テキスト間の相互関係に注目して―

筑波大学 名誉教授 丸山宏

私はミエン系ヤオ族の還願儀礼に用いられる儀礼文献をどのように解読し、その内容の特徴をどのように理解できるかについて、数年来継続して作業を行ってきた。その過程で、発表者が特に興味を持ったことを紹介したい。

同一の文献の本文の中に、あるいは別の文献の本文の中に、特定の表現が繰り返し表現されることは、解読中に注意を引くことであったので、小さな事例を示して説明したい。儀礼文献の本文と同じ、または似たような表現、具体的には語彙があらわれているという事実に注目し、その文脈と意味などを考慮すれば、ミエン系ヤオ族のテキストのあり方、宗教や社会の特徴について、既往の大きな概括的議論とは別の次元で、直接にテキストに即した貴重な示唆が得られると考えており、本発表はそのような理解を蓄積する試みである。

本報告では、藍山県の開壇で使う『聖書上本』、『聖書下本』を主な資料とし、眼にかかわる表現を検討する。たとえば「接祖師歌」に香壇に迎えた祖師たちの眼が輝いているといい、「請上元二聖歌」に悪人として殺された人物の両眼が北斗星のようであったといい、「賞浪兵頭歌」では壇に坐す師たちの眼眉がたくさんあるとし、「脱童歌」に眼の魂を返してもらえば両眼は北斗星になるとする。これらの眼の表現は相互に関係しており、フィールドおよび口述の資料とも無関係でなく、ミエン系ヤオ族のテキスト編集のあり方、およびその宗教と社会において師、神、人にやどる強い生命力をよく示していて、重要な意義を持つと考える。

瑤族儀式文献研究試論：聚焦文本之間的相互關係

筑波大學 名譽教授 丸山宏

我近數年來對於勉系瑤族還願儀式所用之儀式文獻努力加以錄文與翻譯的工作。其主要目的是為了深入解讀文本結構和理解其獨自的表現特徵。此次借用珍貴的機會來將我發現的有趣的內容給大家介紹共享。

看儀式文獻文本，某一個文獻之中，或不同文獻之間，有看過同一詞彙多次出現的現象。偶而遇到此種現象時，我很注意此種現象，而且它有時候給我非常深刻的印象。此報告要舉例子來說明其意義。讀解儀式文獻的文本時，重視文獻中或文獻之間出現的同一詞彙或同一歌詞句子，探討其文脈與意義。我想此種單純的方法會幫助我們能得到有啟發性的發現。通過此方法，不必按照已有的學說，直接根據文本內容，能切實深入地理解瑤族編制文本的方式以及其宗教與社會的特徵。本報告是運用此方法的初步嘗試。

藍山縣勉系瑤族還願開壇時，誦唸《請聖書》、《聖書下本》等文獻。本報告以此類文獻當作

資料來探討〈眼睛〉的含意。舉例如下。〈接祖師歌〉形容祖師們〈世今坐在香壇內，眼睛流  
朗在壇中〉。〈請上元二聖歌〉形容一位強力的神明〈埋了三年屍不爛，兩眼比如北斗星〉。〈賞  
浪兵頭歌〉形容很多的兵頭在壇〈今日人家輪流請，兩個眼眉做一堆〉。〈脫童歌〉形容師男回  
復眼睛的力量〈你把眼魂交付我，兩眼化為北斗星〉。此類表現內容不是單獨出現，是不同文  
脈下互相關聯地出現，也可以跟田野資料或口述內容聯繫起來理解。報告者以為所舉的例子充  
分地表示瑤族編制文本的高度水平與其宗教與社會的強烈生命力。

# 勉瑤《評皇券牒》中的「盤瓠」及其敘事傳統分析

陳玫姩

臺灣天主教輔仁大學宗教學系助理教授級專案教學人員

[mwc511@gmail.com](mailto:mwc511@gmail.com)

2024/06/19

本文將圍繞著三本已出版的《評皇券牒》集編——《瑤族過山榜選編》（1984）、《廣西瑤族社會歷史調查第八冊》（1985）與《評皇券牒集編》（1991），結合歷史典籍、二手研究文獻以及現代民族誌資料，考察瑤族中屬於苗瑤語系瑤語支並自稱為「勉」（mien）的人群，在其講述始祖「盤瓠」神話的《評皇券牒》中所呈現的敘事傳統及其儀式與歷史意義。現行關於《評皇券牒》的研究，通常只侷限在《評皇券牒》此一單一文類和物件的研究上，少與其他同樣講述「盤瓠」的口語與儀式並置考察。《評皇券牒》通常也被視為有別於瑤族儀式手抄本的文書，認為其可能是反映真實瑤漢互動的歷史文件，或一種講述瑤人與帝國關係的政治文書。本文在前人研究的基礎上，透過分析《評皇券牒》中的主角「盤瓠」在神話、口語與儀式層次的兩種面貌——英雄祖先與守護神，企圖論證《評皇券牒》如何是瑤人根據帝國征服邊疆的宏觀敘事自行在民間創作的物件，並同時展現出瑤人「道教化」的過程。

關鍵字：評皇券牒、盤瓠、勉瑤、道教化

## **“Panhu” and Its Narrative Tradition in Mien Yao’s “Charter of Emperor Ping” (Ping Huang Quandie)**

Chen Meiwen

Assistant Professor Grade Teaching Staff, Department of Religious Studies, Fu Jen

Catholic University, Taiwan

[mwc511@gmail.com](mailto:mwc511@gmail.com)

19 June 2024

This paper focuses on three key collections of the “Charter of Emperor Ping” (*Ping Huang Quandie*) or “Placard for Crossing the Mountains” (*Guoshanbang*) by the Mien Yao: “Selected Compilation of the Placards for Crossing the Mountains of the Yao” (1984), “The Eighth Volume of Social History Investigation of Yao People in Guangxi” (1985), and “Compilation of Ping Huang Quandie” (1991). Combining historical documents, secondary research, and contemporary ethnographic data, it examines the narrative tradition and ritual significance of the “Ping Huang Quandie” among the Mien Yao. Previous research seldom aligns “Ping Huang Quandie” with other Yao oral and ritual narratives about the mythic ancestor “Panhu.” Often viewed as a historical document or political statement, “Ping Huang Quandie” is rarely recognized as a ritual manuscript. This paper argues that it is an indigenous Yao creation rooted in the narrative of imperial conquest. It explores the dual role of “Panhu” as a heroic ancestor and guardian deity, analyzing its mythological, oral, and ritual dimensions, and highlights the “Daoification” process among the Yao people.

Keywords: Ping Huang Quandie, Panhu, Mien Yao, Daoification

Author: Martin Tse 謝孟謙

**Seek and Hide, Capturing and Dividing the Souls of the Opponent: A Textual Study of the Magic of Concealing the Basin 禁盆法**

藏迷魂：《禁盆秘語》文本的收捉分靈法

Souls 魂 are the spiritual asset which the Lanten masters must compete for in a contest of magic—a Lanten master is supposed to develop the capacity to reclaim lost souls from various parts of the cosmos, as well as the ability to capture and divide the soul of his opponent, namely the evil man 邪人, whose soul fragments shall be cast to certain secret locations: on the spider webs at the five directions, beneath the lotus seat of the Buddha Mother, inside the cavity of the great river snail that survives since the beginning of the world, and even in the seminal fluid secreted by the cosmic creator couple during their sexual intercourse. Meanwhile, the soul of the magic practitioner must be well hidden in a concealed spot, for instance, disguised as a stick in the bamboo forest, so as to avoid counter-action by his enemy. This textual study on the *Magic of Concealing the Basin* explicates the spiritual journey of the Lanten Daoist Master in his voyage through the Three Levels—Moon Mansion, Sun Palace, and Gold Star—where the master can utilise respectively the energy of water, earth, and heaven to carry out his mission to seek, divide, and hide souls. The competence of a contestant in winning the warfare lies in his familiarity with the cosmic map of the Lanten spiritual universe, his comprehension in revealing the features of the sacred spots, and his courage in navigating a long voyage deep in hell, beyond the sea and high in the summit of heaven.

「魂」為藍靛瑤道師公在法術爭鬥之中所競逐者，行道得力的儀式專家必須懂得如何在靈界各處尋回病患者的失魂落魄，更要懂得以分靈藏魂的法術對付各方「邪人」，或藏之於五方的蜘蛛網，或匿之於佛婆的蓮花座，甚至送入住於大海的巨鱗，浸入天地交泰的五漏水。作法之時，施者須妥善藏護自己的魂魄，置於隱秘無人所知處，在靈界一片特定的竹林裏面擇一竹筒存魂，使其魂不為敵方發現。本文介紹《禁盆秘語》記述的存想旅程，道公須穿越月府（水）、日宮（地）、金星（天）三界，攝召各界的力量以分靈、藏魂、尋魂。熟悉靈界寰宇方隅者，能知各處隱秘點，繼以出入幽冥攀山過海之勇，方可在靈界爭戰之間力保魂魄不失。

# 千般都是魯班教——瑤族的魯班信仰與儀式

孫嘉玥（香港大學博士生）

## 摘要

魯班是中國春秋時期的一名魯國匠人，後來被漢族木匠、石匠等建築業工匠奉為祖師神。對他的信仰在少數民族之間也有流傳。本文研究瑤族的魯班文化，著重探討兩個方面：木匠的魯班信仰，以及魯班在師公、道公宗教儀式中的職能。通過考察相關儀式歌、科儀本與秘語（即秘傳法本），本文認為，魯班作為一個外來文化符號，已進入瑤族文化的諸多層面。瑤族木匠的魯班信仰與漢族大體相同，奉魯班為自身技術與法術的鼻祖，地位崇高。瑤族師公、道公信仰瑤傳道教，魯班在其神譜中雖有一席之地，卻屬於「召之即來，揮之即去」的外神，負責修造儀式中出現的建築物，地位較低。這一現象既體現了魯班被瑤族文化吸納以後，其工匠行業祖師神之形象的一致性，又體現了瑤傳道教對這一外來文化符號的創造性改寫，還從側面反映了木匠與儀式專家在宗教社會地位上的差異。綜合來看，瑤族的魯班信仰既有與漢族的共性，又有在本民族中發展出的個性，以及對本民族信仰系統的嵌入。這體現了在不同人群與社會語境之中，跨民族文化交流所呈現出的多種面貌。

## All Taught by Lu Ban: Faith and Rituals Related to Lu Ban in Yao Culture

Jiayue Sun (PhD candidate, The University of Hong Kong)

### Abstract

In history, Lu Ban (魯班) was a craftsman in the State of Lu during the Spring and Autumn Period (770–481 BCE) of ancient China, later worshipped as the patron deity by Han Chinese carpenters, masons and other artisans. The faith in Lu Ban has spread to various ethnic minorities. This paper studies the faith and rituals related to Lu Ban in Yao culture, focusing on two groups of people: carpenters and ritual specialists. By examining relevant ritual songs, liturgical texts and “secret words” (i.e., esoteric instructions of magic techniques), this paper argues that Lu Ban, originally a foreign cultural symbol, has been assimilated differently into distinctive spheres of Yao culture. Yao carpenters’ faith in Lu Ban is similar to that of the Han Chinese, venerating him highly as the originator of carpentry skills and magic techniques. Ritual specialists who are heavily influenced by Daoism, namely *daogong* (道公) and *shigong* (師公), also place Lu Ban in their pantheon, yet he is conceived as an external deity at their beck and call. He is still responsible for construction in ceremonies, but his status in the entire religious system is relatively low. This indicates that Lu Ban’s core image as artisans’ patron deity shows consistency in Yao-Han intercultural exchange, while his religious functions have been creatively adapted to Yao Daoism. This also reflects the actual socio-religious hierarchy between carpenters and ritual specialists in Yao societies. Together put, Yao people’s faith in Lu Ban displays both commonalities with the Han people’s and individuality rooted in their own ethnic culture, showcasing multiple facets of cross-ethnic cultural exchanges.

国際シンポジウム「ヤオの多面性と統一性」

開催日：2024年10月12日

会場：神奈川大学 みなとみらいキャンパス 1F 米田吉盛記念ホール

グループ C 「生業・技術」

C 組 「生産技術」

中文题目：《六堡茶传承中的多民族交往交流交融与互嵌式发展》

日文题目：《六堡茶の伝承における多民族の交流、融合、および相互浸透による発展》

作者：郝国强（广西民族大学民族学与社会学学院院长/教授，四部委铸牢基地首席专家），李星莹（广西民族大学民族学与社会学学院硕士研究生），奉媛（广西民族大学民族学与社会学学院博士研究生）

**中文摘要：**茶文化是中华优秀传统文化的重要组成部分，是各民族交往交流交融的载体和结晶。六堡茶是岭南地区的特色茶，体现了瑶族与汉族饮食文化的共生之美。在六堡茶文化的变迁过程中，通过“舜帝南巡”“茶箩娘”等民间叙事，岭南先民对中华文化的认同得到延承。同时，制茶技艺从瑶族内部家族传承到各民族间师徒传承方式的转变，展现了区域社会中族际关系从竞生最终走向共生的过程。六堡镇的瑶族经历了从“生瑶”到“熟瑶”的演变过程。在明清时期，随着保甲制度和宽松民族政策的实施，部分瑶族逐渐归附政府、纳入户籍，其身份从“生瑶”向“熟瑶”过渡。新中国成立后，党和国家进行了一系列民族政策调整，保障了少数民族的平等权利，推动了各民族共同发展。在此背景下，六堡茶制作技艺的传承从家族内部走向跨民族的师徒传承，打破了民族和地域界限，吸纳了不同民族的智慧，展现了中华民族文化交流融合的生动实践。梧州市六堡茶产业是多民族互嵌式发展的典范。通过建立广泛的商贸网络，六堡茶实现了从“侨销茶”到“畅销茶”的转变，实现了不同地区、民族间的资源整合和互利共赢，有助于构建多民族互嵌式的产业共同体，通过经济互嵌、文化互嵌和心理互嵌三种方式促进了多民族交往交流交融。例如，在制茶、饮茶、祭茶等活动中，各民族形成了广泛的交流互动。特别是春社节期间，不同民族、不同地域的人们欢聚一堂，共享茶文化，加深了彼此间的情感联结。随着全球化时代的到来，六堡茶已经超越了单一商品属性，成为连接中国与世界的文化纽带。通过与海外华人的联结，六堡茶唤起了他们对故土的思念和文化认同，成为铸牢中华民族共同体意识的重要载体。六堡茶所承载的历史记忆、地方叙事和文化价值，也为研究中国茶文化发展、民族交往交流融合提供了宝贵的案例。在铸牢中华民族共同体意识的时代背景下，六堡茶已成为富有情感共鸣和精神认同的文化符号，展现了岭南地区多民族茶文化共生发展的动人景象。

**日文摘要:** 茶文化は中華の優れた伝統文化の重要な構成部分であり、各民族の交流と交流の融合の担体と結晶である。六堡茶は嶺南地区の特色ある茶であり、ヤオ族と漢族の食文化の共生の美を体現している。六堡茶文化の変遷の過程で、「舜帝南巡」「茶ザル娘」などの民間叙事を通じて、嶺南先民の中華文化に対する認識が延長された。同時に、製茶技術はヤオ族内部の家族伝承から各民族間の師弟伝承方式への転換まで、地域社会における族間関係の競生から共生への過程を示した。六堡鎮のヤオ族は「生ヤオ」から「熟ヤオ」への変化を経験した。明清時代、保甲制度と緩和民族政策の実施に伴い、一部のヤオ族は徐々に政府に帰属し、戸籍に組み入れられ、その身分は「生ヤオ」から「熟ヤオ」に移行した。新中国成立後、党と国家は一連の民族政策調整を行い、少数民族に対する差別を解消し、少数民族の平等な権利を保障し、各民族の共同发展を推進した。この背景の下で、六堡茶製造技術の伝承は家族内部から民族を超えた師弟伝承に向かい、民族と地域の境界を打破し、異なる民族の知恵を吸収し、中華民族文化交流融合の生き生きとした実践を示した。梧州市六堡茶産業は多民族相互嵌式発展の模範である。広範な商業貿易ネットワークの構築を通じて、六堡茶は「華僑販売茶」から「ベストセラー茶」への転換を実現し、異なる地域、民族間の資源統合と互惠・ウィンウィンを実現し、多民族相互モザイク式の産業共同体の構築に役立つ。六堡茶文化は梧州の各民族の日常生活の中に相互に組み込まれ、経済相互組み込み、文化相互組み込み、心理相互組み込みの3つの方式を通じて多民族交流の融合を促進した。例えば、製茶、飲茶、祭茶などの活動の中で、各民族は広範な交流と相互作用を形成している。特に春社祭の期間中、異なる民族、異なる地域の人々が一堂に会し、茶文化を共有し、互いの感情的なつながりを深めた。グローバル化時代の到来に伴い、六堡茶は単一の商品属性を超えて、中国と世界を結ぶ文化の絆となっている。海外の華人とのつながりを通じて、六堡茶は彼らの故郷への思いと文化的アイデンティティを呼び起こし、中華民族共同体意識を固める重要な媒体となった。六堡茶に搭載された歴史的記憶、地方叙事と文化的価値は、中国茶文化の発展、民族交流の融合を研究するために貴重な実例を提供した。中華民族共同体意識を固める時代背景の下で、六堡茶はすでに感情的共感と精神的アイデンティティに富んだ文化記号となり、嶺南地区の多民族茶文化の共生発展の感動的な光景を示した。

## 泰国瑶族传统银饰制作技艺的传承、发展与助力乡村振兴

邓耀利、邓顾贵

泰国瑶族基金会—都银厂有限公司

**摘要：**银饰制作技艺是泰国瑶族的传统工艺技术，也是非物质文化遗产项目。历史上，泰国瑶族不论男女都有佩戴银饰的习俗，其佩戴的银饰都是瑶族民间艺人制作的。但过去瑶族制作银饰主要是为了满足瑶族人佩戴，没有形成银饰制作产业。随着泰国旅游业的发展，瑶族制作的银饰不仅是瑶族服饰装饰品，而且已经成为泰国瑶族地区民族旅游销售的工艺品。泰国楠府谱县巴岗乡巴岗村瑶族邓耀利前任泰国瑶族基金会与都银厂有限公司的创始人，除了将银器制作工艺发展到国际水平之外，还与职业教育委员会办公室下属的干恰那披色学院与皇家金史密斯学院建立了教育合作。每年招收 10 名学生，免费课程来学习银器工艺专业，并传承瑶族银饰制作技艺。直到让银饰成为几乎每个村庄游客的手工艺品，已成为一村一品的旅游工艺品，被认为是传承瑶族传统银饰工艺的典范。学生毕业后可以到都银厂有限公司工作，也可以自己回村创业，传承瑶族银饰制作技艺，发展民族民间贸易，推动瑶族地区的乡村振兴。尽管对于手工艺消费者来说，瑶族银器手工艺经济似乎具有异国情调且在政治上无关紧要，但其名称、标志、服饰和旅游活动等某些特征却为瑶族重塑公众对瑶族的看法提供了可能性；从自卑、原始、贫穷、毒品和麻烦制造者，到杰出的国际化土著群体，该群体在专业知识和经济增长方面都特别成功地利用了这种高价值商品。

**关键词：**泰国瑶族，传统银饰，制作技艺，传承，发展，助力乡村，振兴

### **Inheritance, development and contribution to rural revitalization of the traditional silver making skills of the Yao people in Thailand**

Mr. Somchai– Mrs.Phimporn Rungratchatavanit,

Doi Silver Company Factory Co., Ltd. And the Iu Mien Thai Foundation

#### **Abstract**

The craftsmanship of silver is a traditional craftsmanship of the Iu-mien or Yao people in Thailand, and it is also an intangible cultural heritage item. Historically, both men and women of the

Yao people in Thailand have the custom of wearing silver ornaments, and the silver ornaments they wear are all made by Yao folk artists. However, in the past, the Yao people made silver mainly for the Yao people to wear, and there was no silver manufacturing industry. With the development of Thailand's tourism industry, the silver made by the Yao people is not only a decoration for Yao people's clothing, but also has become a handicraft sold in ethnic tourism in Thailand's Yao area. Mr. Somchai Rungratchavanit, a Yao ethnic group in Phakhang Village, Phakhang Sub-district, Pua District, Nan Province, Thailand, established an educational cooperation with the Royal Goldsmiths College Kanjanapi Theological Seminary through the establishment of the Thai Yao Foundation and Doi Silver Factory Co., Ltd., and recruits 10 students every year to learn silverware crafts for free Professional, inheriting the craftsmanship of Yao silver. In the Yao area of Nan Province, silver has become a tourist craft for every village. After graduation, students can work in Doi silver Factory Co., Ltd., or they can return to the village to start their own businesses, inheriting the craftsmanship of Yao silver jewelry making skills, develop ethnic and folk trade, and promoting rural revitalization in Yao areas. although seemingly exotic and politically insignificant to crafts consumers, certain features of the Iu Mien silver crafts economy, such as the names, logos, attire, and tourism activities act as spaces that allow for the possibility for the Iu Mien to reconfigure the public's perception of the Iu Mien; from that of inferiority, primitivity, poverty, drugs, and troublemakers, to that of a distinguished cosmopolitan Indigenous group that has been particularly successful in engaging with this high value commodity both in terms of expertise and economic growth.

**Keywords:** Thailand Yao people, traditional silver, production skills, inheritance, development, helping rural areas, revitalization.

# 瑶族宗教仪式剪纸的类型与特征

## (摘要)

何红一

(中南民族大学 文学院, 湖北 武汉 43007)

瑶族宗教仪式剪纸与其他民族的同类剪纸一样,是中国民间剪纸的一个重要组成部分。本研究从梳理瑶族宗教仪式剪纸的类型与特征入手,论证瑶族宗教仪式剪纸所体现出的共通性与独特性,揭示瑶族宗教仪式剪纸的学术价值及抢救性整理的迫切性。

关键词: 瑶族宗教仪式; 剪纸; 类型; 特征

### 一、中国巫文化与瑶族仪式剪纸

#### 1. 剪纸起源于巫术。

人类社会早期的剪纸大多被用于祈福避祸的巫术活动,巫术剪纸是剪纸的初原形式,也是民俗剪纸的重要类别。后世的宗教仪式剪纸是在巫术剪纸基础上发展起来的。

#### 2. 早期的剪纸与巫术活动

我国新疆吐鲁番县阿斯塔那古墓葬群中出土的一批古代剪纸,系盛唐至中唐时期(公元七世纪中)时期的文物。

古代巫术与剪纸的关系研究、人日节戴“胜”习俗对中国剪纸的影响研究,都是中国剪纸研究的重要史学课题。

### 二、瑶族仪式剪纸的类型

按宗教仪式剪纸的应用功能划分,本文将瑶族宗教仪式剪纸划分为如下几类:

1. 祭祀剪纸
2. “度戒”剪纸
3. 求子求育剪纸
4. 祈福消灾剪纸
5. 丧俗剪纸

### 三、瑶族宗教仪式剪纸的特征

1. 依附性与神圣性
2. 符号性
3. 综合性
4. 共通性与独特性

### 四、余论

#### 1. 瑶族宗教仪式剪纸是瑶族文化不可忽略的一个组成部分

瑶族宗教仪式剪纸涉及到民俗信仰诸方面,通过鲜明生动的艺术符号来表达深厚的文化内涵,为解读瑶族文化提供新的路径。

## 2. 瑶族仪式剪纸的抢救性调查与研究亟待加强

在宗教仪式中，所用剪纸多被焚毁，所以，这类剪纸存世甚少。随着擅长剪纸的老人逐渐逝去，仪式剪纸也处于濒临失传的境遇。急需研究者和非遗保护者积极行动起来，开展田野调查和资料收集工作，对特定的剪纸传统、技艺、口述历史、图像意义作抢救性记录与整理，建立实物档案和信息档案，为进一步研究创造条件。

## **Types and Characteristics of Yao Religious Ritual Paper-Cutting**

### **(Abstract)**

He Hongyi

( South-Central Min Zu University, Wuhan, Hubei ,China)

Yao religious ritual paper-cutting, similar to the paper-cutting traditions of other ethnic groups, is an important component of Chinese folk paper-cutting. This study begins by categorizing and characterizing Yao religious ritual paper-cutting, demonstrating its commonalities and uniqueness, and revealing its academic value and the urgent need for its preservation and documentation.

Keywords: Yao religious ritual; paper-cutting; types; characteristics

#### I. Chinese Shamanistic Culture and Yao Ritual Paper-Cutting

##### 1. The origins of paper-cutting in shamanism.

In early human societies, paper-cutting was mostly used in shamanistic activities to pray for blessings and ward off disasters. Shamanistic paper-cutting is the original form of paper-cutting and an important category of folk paper-cutting. Religious ritual paper-cutting in later periods developed from shamanistic paper-cutting.

##### 2. Early paper-cutting and shamanistic activities.

A batch of ancient paper-cuts unearthed from the Astana tombs in Turpan County, Xinjiang, dates back to the flourishing Tang Dynasty to the mid-Tang period (mid-7th century AD).

Research on the relationship between ancient shamanism and paper-cutting and the influence of the human-day festival custom of wearing "sheng" on Chinese paper-cutting are important historical topics in the study of Chinese paper-cutting.

#### II. Types of Yao Ritual Paper-Cutting

Based on the functional application in religious rituals, Yao religious ritual paper-cutting is categorized as follows:

1. Sacrificial paper-cutting
2. "Du Jie" (coming-of-age ceremony) paper-cutting
3. Fertility prayer paper-cutting
4. Blessing and disaster prevention paper-cutting
5. Funeral paper-cutting

#### III. Characteristics of Yao Religious Ritual Paper-Cutting

1. Attachment and sacredness
2. Symbolism
3. Integration
4. Commonality and uniqueness

#### IV. Concluding Remarks

1. Yao religious ritual paper-cutting is an indispensable part of Yao culture. Yao religious ritual paper-cutting involves various aspects of folk beliefs, expressing profound cultural connotations through vivid and distinct artistic symbols, providing new insights into understanding Yao culture.

2. Urgent need for the rescue investigation and study of Yao ritual paper-cutting. In religious rituals, the paper-cuttings used are often burned, leaving few surviving examples. As the elderly skilled in paper-cutting gradually pass away, ritual paper-cutting is at risk of being lost. Researchers and heritage protectors need to take prompt action, conducting field investigations and collecting materials to document and preserve specific paper-cutting traditions, techniques, oral histories, and the significance of images, creating physical and information archives to facilitate further research.

タイ北部のミエン（ヤオ）族が暮らす山村における家畜の重要性  
—供犠利用の観点から—

増野高司（神奈川大学非常勤講師）

タイ北部に位置するミエンが暮らす山村では、陸稲やトウモロコシなどを栽培するかたわらで、各世帯が多様な家畜を庭先などで飼育している。ミエンの人びとは日常的に、祖先祭祀などをはじめ、さまざまな儀礼を行うことが知られており、ニワトリやブタなどの家畜が儀礼の際に供犠として利用されている。ミエンの儀礼において供犠とされる家畜は、欠かせないものといえる。しかし、ミエンの儀礼や儀礼文書に関する報告と比べ、供犠として利用される家畜に焦点をあてた報告は少ない。

本報告では、タイ北部のミエンが暮らす山村（P村）を事例として、その家畜飼育の状況を概観するとともに、新年祭等における家畜の供犠利用について、その屠畜数や屠畜された家畜の入手先を示すことなどから、村民がどのように供犠を継続させているかなど、ミエンが行う儀礼における家畜の重要性を明らかにすることである。

結果は以下の通りである。P村では、多くの世帯がニワトリ、ブタ、イヌ、ネコなどを飼育していた。特にニワトリやブタは、ほぼ全世帯が庭先で飼育している。P村の村民が供犠として利用する家畜は、ニワトリとブタを中心として、アヒルおよびウシだった。ウシについては、2005年頃には飼育されていたが、2010年代以降には飼育されなくなっている。アヒルは必要なときに購入するものの、日常的には飼育されていない。新年際では、各世帯が祖先祭祀に関する儀礼を集中的に行っており、ニワトリやブタが供犠として利用されていた。そのニワトリやブタの入手先を見てみると、自分の家で育てた個体を中心に、P村内の世帯から購入された個体や、低地のタイ族系の民族の村も含め、周辺の村々から購入された個体が利用されていた。

P村では供犠としての利用を中心として家畜の飼育が続けられている。しかしながら、新年際の事例が示すように、多くの世帯において、自ら育てた家畜だけでは彼らが供犠として利用する家畜の数をまかなえていない。家畜の観点から見ると、P村で行われる儀礼は、外部の村々の家畜も利用することで継続されている活動といえる。

## Importance of Livestock for the Mien (Yao) People Living in a Hillside Village in Northern Thailand: Focusing on their Sacrificial Utilization

MASUNO Takashi (Kanagawa University, Japan)

Peasants in Southeast Asia not only farm, but also engage in many other subsistence and economic activities, including livestock husbandry. They raise various livestock such as cattle, water buffaloes, pigs, and chickens. Although most peasants do not treat livestock husbandry as their primary subsistence activity, they are closely related to livestock. Some ethnic groups, particularly the Mien, have traditionally used livestock as sacrificial animals.

Some studies exist on Mien rituals and documents for these rituals; however, few have reported on livestock for sacrifice. Livestock for sacrifice is as important as Mien priests, who conduct their traditional rituals, and Mien documents.

This study aims to, first, provide an overview of Mien livestock husbandry in a Mien hillside village (Village P); second, demonstrate the number of pigs and chickens that are sacrificed at Mien New Year Festivals; third, indicate their source of supply of sacrificed pigs and chickens at these festivals; and fourth, discuss how the Mien people maintain traditional rituals from the viewpoint of sacrificial animals.

The results are as follows. Almost all households keep chickens, pigs, and dogs, and many households keep cats. The Mien people sacrifice chickens, pigs, cattle, and ducks, including Muscovy ducks. During the Mien New Year Festival, the Mien people frequently conduct rituals for their ancestors, during which many chickens and pigs are sacrificed.

The villagers in Village P raise chickens and pigs for traditional rituals. However, they sacrifice not only the livestock that they raise but also those that they buy from lowland Thai villages. Mien traditional rituals are maintained by lowland Thai villages.



国際シンポジウム「ヤオの多面性と統一性」

開催日：2024年10月12日

会場：神奈川大学 みなとみらいキャンパス 1F 米田吉盛記念ホール

グループD「儀礼実践の諸相」

D組「儀式実践的各種形態」

## Research theme by YaoDao, HKU—Spiritual Warfare among the Lanten of Laos

### 香港大學瑤道團隊的研究主題——老撾藍靛瑤的靈界爭戰

The Lanten oral stories and the accounts of the Lanten senior ritual experts tell of spiritual warfare as a phenomenon in astonishing detail. Meanwhile, the numerous Lanten manuscripts gathered during the study of the Lanten living manuscript culture in Laos by the Yao Dao Project, which are used in associated ritual healings to counteract the effects of spiritual warfare confirm the vibrant practice of the malevolent use of ritual knowledge among the Lanten masters in the past. Following the end of the Lao Civil War (1954-1975) and the subsequent pacification of Lanten society, spiritual warfare ceased to exist to the extent that no instances have been recorded in recent decades. Therefore, establishing a parallelism between violence in the Lanten society and violence in the Lanten cosmos. These three essays explore in a holistic manner this feature of the Lanten ritual system that combines two opposing principles: Killing and healing using ritual means.

藍靛瑤人與其儀式專家之間流傳的口述故事都詳細記敘靈界爭戰的現象，而他們使用的儀式手抄本更記錄種種應付惡意攻擊的治療術式，這些資料顯示藍靛瑤的道公、師公在過去懂得操弄攻訐敵人的儀式手段。自老撾內戰（1954-1975）結束，藍靛瑤社會隨之變得平穩安定，有關社群中的靈界爭戰在近數十年間越是少見。香港大學瑤道團隊關注藍靛瑤社會與靈界兩者之間的平行發展關係，尤以三篇論文探索藍靛瑤的儀式系統，

**Authors: Joseba Estevez and David A. Palmer 周思博、宗樹人**

### **Cooking the Barbarians, Conquering the Forest: Lanten Yao Spiritual Warfare at the Margins of Chinese and Tai Polities.**

#### 蠻夷為熟、野林為征：中越邊陲政體之間的藍靛瑤靈界爭戰

#### Abstract 摘要

The core Lanten ideologeme *yam kaang - yang kaang* 陰間陽間 identifies a dual permeable and interpenetrating reality composed of two interwoven complementary worlds. One is invisible and spiritual and the other is visible and material, the world of the living. Similar concepts are found in the Chinese ideologeme *yin - yang* and amongst other societies in the Uplands of continental SE-Asian related linguistically and culturally to the Lanten. Such is the case of the Mien “*yiem genv - yaangh genv*” (MacDonald 1997) and the Hmong “*yeeb ceeb - yaj ceeb*” (Tap 1989). In all instances, these ideologemes refer to a dual reality that encompasses immortal and powerful spiritual beings who include deities, ancestors, and the dead. In this cosmivision, the invisible world is articulated as a reflection or mirror of the visible counterpart, but articulated in terms of late Chinese imperial ideology; the invisible inhabitants share characteristics, hagiographies, physical descriptions, functions, and attributes ascribed to deities honoured in Daoism, Chinese Buddhism, and Chinese popular religion. Within this cosmos, the deities are hierarchised in a manner that echoes the organisation of the late Chinese imperial government: The Jade Emperor rules the known socio-cosmos from his palace in the Upper Realm as the Chinese emperor ruled the Chinese empire from his capital. The Lanten Yao of what is now northern Laos resided between three highly different socio-political milieus, each of which practices its own modality of territorial animism: the Chinese empire, the *müang* (polity) and the forest. As they migrated into the region, the Lanten engaged in cosmological warfare with the forest in order to conquer the land they would inhabit on the

periphery of the empire and *müang*. The spiritual ownership of this land is defended by a pantheon of deities and ancestors who support the spiritual warfare against its original inhabitants. These deities share the commonality of being highly militarised and eager to enter into spiritual warfare. In this regard, the Lanten ritual experts mirror in the ceremonies the Chinese Emperor who conquered and pacified the borderlands, in which the unruly deities to be pacified are a metaphor for the Lanten themselves. From the imperial capital, the Emperor rules the barbarians; from the *müang*, the City Lord pacifies the highlanders; while from the Lanten village, the priests and masters pacify the demons and ghosts in the forest. At the same time, the Lanten invert the Chinese imperial metaphor, placing themselves at the centre of the socio-cosmos and exercising ritual control over the officials of the celestial bureaucracy. This article focuses on the never-ending cosmological warfare that the Lanten engage in at the ritual level in three different spaces: The human body, the village, and the temporary altars or Celestial Yamen.

藍靛瑤的核心意識形態元素「陰間、陽間」yam kaang – yang kaang 辨識一種互作滲透的二界相連世間觀。一者為無形靈界，一者為有形的物質生活界。漢地中國與東南亞的高原社群皆運用類似的二界意識元素，例如勉瑤的 yiem genv – yaangh genv (MacDonlad 1997) 及苗蒙的 yeeb ceeb – yaj ceeb (Tap 1989)。這些意識形態元素關乎一種二元實相形成的宇宙觀，一切靈驗鬼神、祖先、亡者皆為此宇宙觀所涵蓋，無形靈界是有形物界的鏡像反映。若以漢地帝國意識形態為論述，住於無形靈界者為道教、佛教、民間信仰所敬奉的各種仙聖賢佛，藍靛瑤的靈界個體與漢地社會所記述的鬼神名諱、仙聖傳記、神貌、效驗、恩德或有相似共通處。而藍靛瑤更置立一套呼應中國帝制政體的鬼神階級制度，遙居天界的玉皇是一切社會宇宙秩序的統治者，正如漢中國皇帝遠在首都治理一國之境。今老撾北部可見三大政社體系，各行使其地域性泛靈主義，三者為漢帝國、城邑 *müang*、山林。藍靛瑤遷入漢帝國邊陲與當地城邑之間的地帶，先須征服其本土無形靈界眾生，方可安居。藍靛瑤現在居住的土地為其族人所敬奉的神靈及祖先所擁有，眾神祖先皆是惟武好勇，敢於靈界對無形眾生開戰征伐。藍靛瑤的儀式專家能運用漢帝國隱喻，正如中國的皇帝能征伐及撫順邊陲族群，瑤人的道公與師公也能對付當地不羈難馴的原住鬼神。皇帝自其國都遙遙的統治蠻夷，城主從其督府治理高原的住民，而藍靛瑤的道公與師公則穩守村落以排拒山林中的鬼神。藍靛瑤更倒置漢帝國的隱喻，自設為其社會宇宙觀的中心，施行儀式以控制三界之中一眾官僚神靈。本文集中討論藍靛瑤之間永續發生的靈界爭戰，尤以三個層面為研究主線——人身、村落、儀式暫設的神權衙門。

**Author: Joseba Estevez 周思博**

**Riding spirit horses and paddling invisible boats: Mapping the Lanten cosmological landscape and the Lanten ritual experts' mind journeys.**

**駕靈馬、轉天船：藍靛瑤的靈界地圖與道師公的存思旅程**

Abstract

The interplay between the invisible and visible worlds is the playground of the Lanten ritual experts. Their quasi-encyclopaedic knowledge on oral stories and ritual texts endows them with a profound comprehension of their cosmos, which is moulded in a very precise manner with particular secret/sacred locations marking key cosmological domains. This cosmos spans across a vertical axis consisting of three horizontal realms, with the clockwise and anticlockwise rotational movements enabling ascension and descent, respectively, hence travelling through this cosmos. Each Lanten ritual necessitates of a distinct journey that primarily occurs in the mind of the ritual expert leading the ceremony and that is often inform by a living manuscript containing secret words detailing the route. Drawing upon a decade of social anthropological fieldwork conducted among the Lanten of Laos and the extensive living manuscript culture used by his community in their rituals, this article presents the first comprehensive map of the Lanten cosmological landscape and illuminates the rationale behind the mind journey undertaken by the Lanten ritual experts in framework of spiritual warfare.

無形界與有形界之間的領域是藍靛瑤儀式專家的遊樂場，其口述故事內容豐富如百科全書，其儀式文本更盛載深遠的藍靛瑤宇宙觀知識，使儀式傳承者能準確掌握靈界之中獨特的秘密點、神聖點、地域記號。藍靛瑤的宇宙觀以豎向為軸，順轉為上行，逆轉為下行，行者能在順逆轉之間穿越三界。藍靛瑤的每場儀式都是一段特別的存思旅程，儀式專家依照秘語文本所示，在其存思活動裏面踏上指定的路線。本文作者累積多於十年對老撾藍靛瑤作人類學田野考察的經驗，充分理解當地儀式傳統所應用的手抄本文化，在此整理學界首份藍靛瑤靈界寰宇地圖，分析在靈界爭戰之下，藍靛瑤道師公走上存思旅程的原理。

# 越南蓝靛瑶和红瑶的度戒仪式比较研究

越南文化旅游应用研究院 陈友山

越南文化体育旅游部 民族文化处 阮氏虹

## 摘要:

成人礼（度戒）是瑶族人最大的仪式之一，其既是成丁礼又是道教礼。在越南，不同的瑶族支系仪式也有所不同。这些仪式中最具有特色的是优勉支系（以红瑶为代表）和金门支系（以蓝靛瑶为代表）的成人礼。我们对红瑶和蓝靛瑶两个瑶族支系在成人礼中的宇宙观、神灵系统、神圣空间（祭坛）进行了比较，其中特别关注了空间结构、神像面具、神灵住所的门和符号特征。此外，本文对两个支系的主要仪式进行了比较，例如接祭司、清洁祭坛（驱鬼神）、接城仪式和献祭仪式；成人礼受度青年挑战仪式；向受度者传授经书仪式；攀爬梅山、重生仪式；宣布受度者圣礼成功仪式；送神回神界仪式。

文章运用了阿诺德·范·热内普（Arnold Van Gennep）的转换仪式理论，维克多·特纳（Victor Turner）的人类学特征理论列维-斯特劳斯（Levi-Strauss，法国）的结构人类学理论等，旨在分析和解释优勉和金门支系两个群体在宗教仪式上体现出来的特点及其功能。

**关键词：**度戒；红瑶，蓝靛瑶，宇宙观，神灵系统

# ベトナムにおけるランテンヤオとホンヤオの

## 度戒儀礼に関する比較研究

ベトナム文化旅行応用研究院 陳友山

ベトナム国家体育旅行部 民族文化処 阮氏虹

### 概要:

成人式（度戒）はヤオ族の最大の儀礼の一つであり、それは「成丁式」と同時に「道教式」でもある。ベトナムではヤオ族の支系によって儀礼が異なる。これらの儀礼の中で最も特色があるのは、ミエン（ホンヤオを代表とする）とキンモン（ランテンヤオを代表とする）の成人式である。我々はホンヤオとランテンヤオの成人式における宇宙観・神霊システム・聖なる空間（祭壇）を比較し、その中で空間の構造・神像の仮面・神々の住いの扉とシンボルに注目した。さらに、本稿では、二つのエスニックグループの主な儀礼を比較した。例えば、接祭司・清潔祭壇（鬼神を追い払う）・接城儀礼と献祭儀礼、成人式・受礼青年の挑戦儀礼、受礼者に経書を授ける儀礼、攀爬梅山・再生儀礼、受礼の成功を宣言する儀礼、神々を神界に送る儀礼などである。

本稿はアーノルド・ヴァン・ジェネップ（Arnold Van Gennep）の過渡理論、ヴィクター・ターナー（Victor Turner）のシンボル理論、レヴィ・ストロース（Levi-Strauss、フランス）の構造主義理論などを用い、ミエンとキンモンの二つのグループの宗教儀礼の特徴とその機能を分析、解釈することを目的としている。

**キーワード:** 度戒; ホンヤオ; ランテンヤオ; 宇宙観; 神霊システム

## 勉瑶挂灯仪式的结构、功能、意义及象征

——基于挂三灯、七星灯、十二盏大罗明月灯的考察——

广西民族大学 谭 静

### 摘要:

本文聚焦于南岭走廊，即湖南与广西交界及其周边地区，这一区域是瑶族勉语土语集团分布人口较为密集的地区，文化具有极高的相似性。通过田野考察发现，湖南南部的勉瑶不举行挂七星灯仪式，而广西东部的勉瑶则较少挂十二盏大罗明月灯。尽管同属勉瑶支系且地理位置相近，两地的挂灯仪式在类型上存在显著差异。这种差异不仅有助于深化我们对勉瑶宗教信仰和世界观的理解，而且为研究勉瑶挂灯仪式的传承与变迁提供了宝贵的视角。本文通过对湖南永州和广西贺州勉瑶宗教仪式“挂三灯”、“挂七星灯”与“挂十二盏大罗明月灯”的比较研究，揭示了三者结构上的相似性与功能上的差异性。并且，透过对这三个挂灯仪式的比较分析，探讨了仪式中“灯”的象征意义、“灯”与人的关系、仪式空间的构建以及仪式行为的深层含义。这些仪式元素不仅承载着勉瑶对于宇宙、自然和生命的认知，也反映出其宗教信仰与世界观的内在逻辑。

**关键词：**瑶族；勉；南岭走廊；挂灯仪式；宗教信仰

## ミエンヤオ掛燈儀礼の構造・機能・象徴と意義

### ——掛三燈・掛七星燈・掛十二盞大羅明月燈の考察に基づき——

広西民族大学 譚 静

#### 概要:

本稿では南嶺回廊、すなわち湖南省から広西チワン族自治区にかけてのエリアとその周辺に焦点を当てる。このエリアはヤオ族のミエン語方言グループが密集して分布している地域であり、文化的には極めて高い類似性を持っている。フィールドワークによると、湖南省南部のミエンは「掛七星燈」儀礼を行わないが、広西チワン族自治区東部のミエンは「掛十二盞大羅明月燈」儀礼をあまり行わない。同じエスニックグループに属し、地理的に近いにもかかわらず、両地の掛燈儀礼は類型において明らかな違いがある。このような違いに着目することは、ミエンの宗教信仰と世界観に対する理解を深めるのに役立つだけでなく、ミエンの掛燈儀礼の伝承と変遷を研究するために貴重な視点を提供してくれる。本稿では比較研究を通じ、掛三燈・掛七星燈・掛十二盞大羅明月燈の構造上の類似性と機能上の差異性を示す。さらに、この三儀礼の分析を通じ、儀礼中の「燈」の象徴的意義・「燈」と人間の繋がり、儀礼空間の構築及び儀礼行為の意味を検討する。これらの儀礼要素は、宇宙・自然・生命に対するミエンの認識を含んでいるだけでなく、宗教信仰と世界観の内在的な論理を反映していると考えられる。

キーワード：ヤオ；ミエン；南嶺回廊；掛燈儀礼、宗教信仰

# 互动仪式链理论视角下过山瑶“杀年猪”文化的实践表达

杨小君

(广西民族大学民族学与社会学学院 助理研究员, 中国 南宁, 530006)

## 摘 要

本研究运用美国社会学家 Randall Collins 提出的互动仪式链理论, 分析瑶族“杀年猪”文化及其在山地民族社区互动中的多重社会功能。通过对中国贺州黄石村过山瑶进行深入的田野调查, 揭示了该传统习俗在现代社会环境下, 其社会功能从祭祀祈福、生活改善, 到促进家庭和睦、邻里团结、强化社区身份认同的转变过程。“杀年猪”社会功能的变化不仅体现了瑶族文化的适应性和持续性, 还表明了仪式活动在促进情感交流和增强社区凝聚力方面的核心作用。

“杀年猪”不仅是满足社区食物需求的实际行为, 更是一种重要的文化实践。通过这一仪式过程, 瑶族人民表达了对祖先的敬仰和对未来的祝愿, 也反映了对自然和谐与社会秩序的重视。互动仪式链理论提供了一个框架, 通过观察这些互动过程来理解社区如何通过共同的活动和情感体验来构建社会秩序和增强凝聚力。过山瑶居住在崇山峻岭中, 具有散居范围广的特点。因此通过该仪式活动, 社区成员共同参与屠宰、准备并共享食物, 促进了社区成员之间的互动与合作。同时, 通过仪式的共同参与, 社区成员间的社会身份和角色得到了确认和强化, 尤其是村中的长者和精英领袖在这一过程中扮演着关键角色。这不仅增强了他们的社会地位, 也加深了年轻一代对传统文化的认同与尊重。此外, 互动仪式链理论进一步指出, 仪式活动中的情感激发和共同注意力的集中, 有助于形成情感共鸣和集体记忆。这种由共同仪式活动产生的情感共鸣是社区社会结构持续和稳定的重要支撑。因此, “杀年猪”不仅仅是一种民族习俗, 更是建设和谐社区的有效途径。

通过本研究, 我们不仅能够深入理解瑶族在现代社会中如何通过传统习俗来应对社会变迁, 还能够洞察到传统文化实践如何在全球化的压力下维持其独特性和持久性。研究结果强调了文化实践在塑造和维护社区和谐中的核心作用, 为更广泛的民族社区研究提供新的视角。

**关键词:** 杀年猪, 过山瑶, 互动仪式链, 社区互动

# **Cultural Practices of Guoshan Yao' *Sha Nian Zhu*<sup>1</sup>: An Analysis from the Perspective of Interaction Ritual Chains Theory**

**YAN Xiaojun**

**(College of Ethnology and Sociology, Guangxi Minzu University, Assistant  
Researcher, Nanning 530006, China)**

## **Abstract**

This study applies the interaction ritual chains theory, proposed by American sociologist Randall Collins, to analyze the cultural significance of the Yao' *Sha Nian Zhu* and its multiple roles in the interaction of mountain minorities community. Through the field investigation of Huangshi Village, Hezhou, China, inhabited by the Guoshan Yao, has unveiled the transformation process of this traditional custom from offering sacrifices to pray for good fortune and improving life to promoting family harmony, neighborhood unity and strengthening community identity under the modern social environment. The change in the social function of *Sha Nian Zhu* not only reflects the adaptability and sustainability of the Yao culture, but also demonstrates the central role of the ritual activity in promoting emotional exchange and enhancing community cohesion.

*Sha Nian Zhu* is not only a practical act to meet the food needs of the community, but also an important cultural practice. Through this ritual process, the Yao people express their respect for their ancestors and wish for the future, and also reflect the importance of natural harmony and social order. Interaction ritual chains theory provides a framework for observing these interactive processes to understand how communities build social order and enhance cohesion through shared activities and emotional experiences. The Guo Shanyao live in high mountains and lofty hills, and has a wide range of scattered areas. Through this ritual, community members participate in slaughtering, preparing and sharing food, which promotes interaction

<sup>1</sup> A ritual that slaughter pig for the arrival of Spring Festival .

and cooperation among community members. At the same time, through the joint participation of the ritual, the social identity and role of the community members are confirmed and strengthened, especially the village elders and elite leaders who play a key role in this process. This not only enhances their social status, but also deepens the younger generation's recognition and respect for traditional culture. In addition, the interaction ritual chains theory further points out that emotional stimulation and the concentration of shared attention in ritual activities contribute to the formation of emotional resonance and collective memory. This emotional resonance generated by shared ritual activities is an important support for the continuity and stability of the social fabric of the community. Therefore, *Sha Nian Zhu* is not only a national custom, but also a powerful way to build a harmonious community.

Through this study, we can not only gain an in-depth understanding of how the Yao cope with social changes through traditional customs in modern society, but also gain insight into how traditional cultural practices maintain their uniqueness and durability under the pressure of globalization. The findings highlight the central role of cultural practices in shaping and maintaining community harmony and provide new perspectives for the broader study of minorities communities.

**Keywords:** *Sha Nian Zhu*, Guoshan Yao, Interaction Ritual Chains, Community Interaction

# 过山瑶招郎入赘祭祖仪式的宗教人类学阐释

玉璐

摘要：祭祖仪式是祖先崇拜最基本的表现形式，展现了为一种活态的、流动的精神性文化。招郎入赘作为一种婚姻习俗存在于过山瑶社会中，其方式有“卖断”“卖一半”“顶两头”等。祭祖仪式是招郎入赘婚俗重要一环，将阴间与阳间紧密相连，承载着过山瑶男子身份的转换。不论招郎入赘以何种方式进行，过山瑶男子均要通过祭祖仪式，从原家庭的家先单中剥离，经过短期的游离后归依到新家庭的家先单，获取新的身份。祭祖仪式作为一种过渡礼仪，展现了“分隔—边缘—聚合”的过渡礼仪三阶段，人们借助过渡礼仪，实现一个阶段向另一个阶段的平稳过渡。通过对过山瑶招郎入赘祭祖仪式整体考察后发现，祭祖仪式虽然均以“聚合”为目标，但因招郎入赘的方式不同，最终的身份归依也有所区别，这既反映传统文化又体现时代特征。通过对祭祖仪式进行结构的多层次和主体的多重性分析阐释，逐层展现过山瑶的婚姻观、灵魂观、宗教信仰等，并阐释该文化的民族性和区域性特质。

关键词：招郎入赘；祭祖仪式；过渡礼仪

# Interpretation of Religious Anthropology to uxori-local marriage of Guo shan Yao ancestor worship ceremony

YuLu

**Abstract:** The ancestor worship ceremony is the most basic form of ancestor worship, which shows a living and flowing spiritual culture. As a marriage custom, uxori-local marriage exists in Yao society in the following ways: Living in the woman's home all his life, live in the woman's house for a certain period of time, live on both sides. Ancestor worship ceremony is an important part of the uxori-local marriage custom, which closely connects the Yin and Yang, and carries the transformation of the identity of the men of the Guoshan Yao. Regardless of the way of uxori-local marriage, the men of Guoshan Yao are required to separate from the family list of the original family through the ancestor worship ceremony, and return to the family list of the new family after a short period of dissociation to obtain a new identity. As the rites of passage, the ancestor worship ceremony shows the three stages of the transitional etiquette of Separation to edge to aggregation, people with the help of rites of passage, achieve a smooth transition from one stage to another stage. Through the overall investigation of the ancestor worship ceremony of uxori-local marriage in Guoshan Yao, it was found although the ancestor worship ceremony takes 'aggregation' as the goal, the final identity attribution is also different due to the different ways of uxori-local marriage, which not only reflects the traditional culture but also reflects the characteristics of the times. Through the analysis and interpretation of the multi-level structure and the multiplicity of the subject of the ancestor worship ceremony, It shows the marriage view, soul view and religious belief of Guoshan Yao layer by layer, and explains the nationality and regional characteristics of the culture.

**Key words:** Uxori-local marriage; Ancestor worship ceremony; Rites of passage.

**Author:** Yu Lu, Associate Researcher, Phd, Nanning normal university Editorial Department of the journal.

## 蓝山县荆竹瑶族乡散花仪式社会功能刍议

四川大学道教与宗教文化研究所 2018 级博士研究生、西南民族大学外国语学院语言文学学院日语系讲师 卢顺维

“散花”是三奶夫人教师公将“置花”时藏在“花园”中的花男花女的灵魂解放出来，重新过关斩煞后，以嘱戒的形式对花男花女进行入社前世俗教育的仪式。田野调查记录来源于笔者 2022 年 1 月 20 日晚，在蓝山县荆竹瑶族乡蒲林村拍摄的，瑶族师公赵昌发为当地一名邓姓 17 岁瑶族花男举行的“散花”仪式，由师公一人完成，耗时 7 小时，共分 25 个环节。

通过将湖南蓝山荆竹瑶族乡瑶族宗教的装坛、神灵系统、经书、神咒、手诀、罡步、树幡科仪、做蒙山科仪、碗花祭将科仪与江西南部安远县、崇义县等地的三奶夫人教相关内容进行对比分析，结合田野调查点严维昌师公曾祖父从江西迁来的证据，确定湖南永州蓝山荆竹瑶族乡蒲林村一带的瑶族宗教的确属于三奶夫人教，源自赣南地区。蓝山荆竹瑶族乡的“散花”仪式是江西南部三奶夫人派传入瑶族地区的结果。

三奶夫人教的主题是“斩蛇”与“护产”。“花”生育信仰、“花公花母”神灵信仰是三奶夫人教“护产”主题的象征，并催生了“过关”、“扶产”、“保胎”、“置花”、“暖花”、“散花”仪式。“散花”象征着花朵的成熟，即将进入“结果”的阶段。并通过“结果”产生新的“花朵”，象征着人类生命的循环往复，生生不息，是一种通过性礼仪。“散花”仪式中的“过十二关煞桥”、“斩鸡头”、“拧鸡头”是“斩蛇”主题的象征，是三奶夫人信仰体现出来的一种正邪不两立的、慷慨激昂的人文关怀，是尊重生命价值、尊重人世生活的一种表现。

“散花”仪式有教化的功能。其次，有“成人礼”的功能。第三有向整个群体成员传递尊重生命、热爱生活的警示功能。

## 藍山県荆竹瑶族郷の散花儀礼の社会機能について

四川大学道教與宗教文化研究所博士課程院生・西南民族大学外国語言文学学院日本語科講師 盧順維

「散花」とは、三奶夫人教の師公が、「置花」する時に「花園」に仕舞っておいた花男花娘の靈魂を解きだして、戒めの言葉を言い聞かせる形で一般的世俗教育を行う儀礼である。当論文が基づく田野調査報告書は、筆者が2022年1月20日の晩、藍山県荆竹ヤオ族郷蒲林村にて録画した、ヤオ族師公の趙昌發が当村の鄧という17歳のヤオ族青年のために行った「散花」の儀礼に由来する。25項目の内容からなり、7時間かかる。

蒲林村のヤオ族宗教の装壇、神靈体系、経文、呪い言葉、手訣、罡歩、樹旛儀礼、做蒙山儀礼、椀花祭将儀礼などを、江西省南部の安遠県、崇義県あたりの三奶夫人教の関係情報と比べてみた結果、また蒲林村在住で世代師公の神職を受け継いできた嚴維昌師公が、その曾祖父が江西省から引っ越してきたことを証拠に加えて、蒲林村の宗教は三奶夫人教であることが判明される。藍山県の「散花」儀礼は、江西省南部に流行る三奶夫人教によって現地に伝えられたものである。

三奶夫人教をまつわるテーマが「斬蛇」と「護産」に大別する。「花＝生育」信仰、「花公花母」神靈信仰は「護産」に因むもので、「過関」「扶産」「保胎」「置花」「散花」「暖花」などの儀礼を生み出す。「散花」は、「花」期がいよいよ終わりを迎えてきた少年少女が、いよいよ実を結ぶ段階に運び、今度は新しい「花」を持つようになる、という生命の循環を象徴する。「十二関煞の橋を過ぎる」「鶏の頭を斬る」「鶏の頭を捻る」内容は、「斬蛇」というテーマの象徴であり、正義と邪悪のけじめが著しくつけられ、生命の価値が尊ばれ、人間生活が尊重される象徴である。「散花」儀礼における社会機能は教育にあり、「成人式」にあり、ヤオ族社会全体に対して、命を、そして生きることを尊重しよう、熱愛しようと戒めることにある。

# 魂过“九州”：排瑶生命仪式中的帝国隐喻

张卓

四川大学道教与宗教文化研究所 2021 级博士研究生

**摘要：**在广东省连南县八排瑶的信仰体系中，“九州”是一个重要的象征符号，常以“过九州”仪式片段的形式穿插于传度祭祖、丧葬等大型仪式中，也曾在历史上运用于祭寨、召魂还魄、治疗疾病和驱鬼除邪等法事中。大型仪式中的“过九州”由排瑶先生公引领家族成员参与，演绎的是“黄帝九子镇守九州”的神话，并具有“九州（宫）八卦”的象征意涵。本文通过对广东省连南县排瑶生命仪式和宗教抄本的调查研究认为：排瑶宗教观念中的“九州”与汉地“九州”均是“帝国”地理空间的象征。但排瑶对“九州”的理解却非汉文典籍中“九州”概念的简单复刻。通过对排瑶与道教、梅山教九州意象的比较研究，本文指出：排瑶“过九州”现象的出现并不是道教直接影响排瑶社会产生的仪式形式，而更有可能是受道教影响深刻的梅山教对作用于排瑶宗教产生的结果。排瑶“过九州”和道教、梅山教的“九州科法”一样，具有招役兵马、驱除邪祟、祈福延寿的宗教功能，还与梅山教师公“抛牌过度”中的“踩踏九州大坛”一样，具有传度过法的用途。排瑶“挨旦堂”和丧葬仪式中的“过九州”，促成了排瑶社会的内部分划，也给予了排瑶人“生时有庇护，死后由归宿”的心理支撑，缓解了人们对生活中不确定因素和死后灵魂漂泊带来的恐惧。“过九州”的代际传承，是排瑶寻求积极社会认同的重要途径，也具有重现祖先迁徙记忆，促进族群凝聚的社会功能。“过九州”在排瑶生命仪式中的运用，一定程度上反映了历史上，身处九州边缘的族群通过文化涵化，面向中原主流文化进行靠拢和社会适应的过程。其中蕴含的排瑶对“帝国”中心权力既恐惧又渴求的心理，正是历史上排瑶信仰与帝国政治之间互动的隐喻。

**关键词：**排瑶 生命仪式 九州 社会认同 帝国隐喻

# Passing Through the "Nine Regions": Imperial Metaphors in the Life Rituals of the Pai Yao

## ABSTRACT

In the belief system of the Bapai Yao (八排瑶, also called Pai Yao 排瑶, a branch of the Yao ethnic group in China) in Liannan, Guangdong Province, "Jiuzhou (九州, Nine Regions) " is an important symbol. This symbol is applied in a ritual proceeding called the "Guo Jiuzhou (过九州, Crossing Nine Regions) ", which often appears in ordination ceremonies, ancestor worship ceremonies, funerals, village sacrifices, healing rituals, and exorcism rituals. In large-scale rituals, "Guo Jiuzhou" is led by a master to guide Pai Yao family members. The ritual proceeding depicts the mythical story of the HuangDi (黄帝, Yellow Emperor) 's nine sons guarding the nine regions in ancient China, and it carries the significance of the Nine Palaces and Eight Trigrams.

Through field research on the religious rituals and manuscripts of the Pai Yao people in Liannan, this article concludes that in the religious beliefs of the Pai Yao people, "Jiuzhou" and the Han Chinese concept of "Jiuzhou" both symbolize the geographical space of the "empire." However, the Pai Yao understanding of "Jiuzhou" is not merely a simple replication of the concept found in Han Chinese literature. Through comparative research on the Jiuzhou symbol in Pai Yao religion, Taoism, and Meishan teachings (梅山教), this article argues that the emergence of "Guo Jiuzhou" is not directly influenced by Taoism. Instead, it is more likely a result of influence from Meishan teachings. The Pai Yao "Guo Jiuzhou", similar to the "Jiuzhou Gang(九州罡 Pacing the Nine Region) " in Taoism and Meishan teachings, serves religious functions such as commanding spiritual soldiers, seeking blessings and longevity, and warding off evil spirits. Like the "stepping on the Jiuzhou altar(踩踏九州大坛)" in the ordination of the Meishan masters, this ritual also serves the function of lay ordination. The "Guo Jiuzhou" in Pai Yao ordination ceremonies and funerals has led to social categorization within Pai Yao society. It also provides psychological support to the Pai Yao people, offering

a sense of protection during life and a sense of destination after death, thereby alleviating fears of uncertainties in life and the wandering of souls after death. The intergenerational transmission of "Guo Jiuzhou" is an important pathway for the Pai Yao to seek positive social identity. It also serves the social function of reenacting ancestral migration memories and promoting family cohesion. The application of "Guo Jiuzhou" in Pai Yao life rituals reflects, to some extent, the historical process where ethnic groups on the periphery of the Chinese Empire adapted to mainstream culture through cultural acculturation and social adaptation. The underlying fear and longing of the Pai Yao towards imperial power encapsulate the historical metaphor of interaction between Pai Yao beliefs and imperial politics.

**Keywords:** The Pai Yao; Guo Jiuzhou; life rituals; social identity; imperial metaphor



国際シンポジウム  
「ヤオの多面性と統一性」要旨集

発行日 2024年9月18日  
発行所 一般社団法人 ヤオ族文化研究所  
ヤオ研ウェブサイト <https://www.yaoken.org/>

※本書の内容について文書による許可なく無断転載・複製することを禁じます。